

仕様書

1 入札条件

(1) 入札対象物品名・数量

本入札の対象物品は下記の物品とする。

検体検査システム（詳細は別紙参照）

※運搬、搬入、設置、調整、データ移行費用等を含むこと。

(2) 納入期限

2023 年 9 月 30 日

(3) 納入場所

済生会新潟病院（新潟市西区寺地 280－7）

(4) 保守体制

①保守体制

通常の使用で発生した故障の修理及び定期的保守点検を実施できる体制であること。

②支援体制

年間を通じて 24 時間の連絡ができる体制であり、障害時において復旧のため通報を受けてから、問い合わせに対する回答や故障対応に関するサポートができる体制であること。

③保証期間

納入検査確認後、1 年間は通常の使用により故障した場合、無償修理に応じること。

2 設置条件

(1) 入札後実際の納入期日までにモデルチェンジ等により、対象物品を納入することができなくなった場合には、病院側と協議のうえ後継機種を納入すること。

(2) 取扱説明

①取扱説明に関する教育訓練は、当院が指定する日時、場所で行うこと。

②操作マニュアルは、日本語版を 2 部とする。

3 指定銘柄

入札対象機器は、下記のとおりとする。

メーカー名	商品名	型番等
株式会社エイアンドティー	別紙詳細参照	別紙詳細参照

別紙詳細

1 システム詳細

1	検体検査システム
1-1	検体検査システム・ソフトウェア要件
1-1-1	基本形態はクライアント／サーバシステムであること。
1-1-2	リレーショナルデータベース（RDB）を採用していること。
1-1-3	排他制御が可能であること。
1-1-4	データベースを暗号化して保管できること。
1-1-5	サーバは 24 時間 365 日連続稼働できること。（メンテナンス時を除く）
1-1-6	機器構成により、メインサーバとバックアップサーバのデータ同期がとれ、障害時のバックアップサーバへ切り替えが出来る事。
1-1-7	HIS のダウン時も検査運用が停止せず、HIS 復旧時自動的に結果送信など速やかに整合性が担保できること。 但し、HIS ダウン時に検査を行ったオーダについては HIS ベンダーとの取り決め通り送信するものとする。
1-1-8	バックアップデータを取得した時点の状態に復旧し、運用継続できること。
1-1-9	バックアップは自動化できること。
1-1-9-1	バックアップデータをランサムウェアに影響されない環境に置くこと
1-1-10	日付更新（日替処理）時、検査業務を停止することなく運用ができること。
1-1-11	アプリを起動していない状態でも、設定した端末・ユーザーに対してポップアップ表示や通知音を通知できること。端末単位で通知の履歴を管理できること。
1-1-12	システムは、リソース監視、死活監視、パフォーマンス監視、エラー監視を行うことができること。
1-1-13	リソース監視は、CPU 使用率、メモリ使用率、ディスク使用率を対象とすること。
1-1-14	パフォーマンス監視は、パフォーマンスモニタ値、特定クエリの実行時間、外部連携実行時間などを対象とすること。
1-1-15	エラー監視は、システムログ、アプリケーションログを対象とすること。
1-1-16	検査情報はサーバのハードディスク内へ 10 年間保存できること。（ハードディスク容量に依存する）
1-1-17	VPN 接続し遠隔メンテナンスできること。
1-1-18	現行システムからのデータ移行については、過去 10 年分の移行ができる

	こと。
1-2	ソフトウェア基本性能
1-2-1	部門は最大 99 部門まで登録できること。
1-2-2	1 日の部門別の採番は 1～99,999 件まで登録できること。
1-2-3	1 日の検査依頼件数は、99,999 件登録できること。
1-2-4	検査項目コードは JLAC10 と紐付けできること。
1-2-5	検査項目コードが展開する子項目は、100 項目まで登録できること。
1-2-6	1 検査依頼における検査項目数は最大 999 項目まで登録できること。
1-2-7	1 ワークシートあたりの検査項目の登録数は 60 項目とできること。
1-2-8	セットコードは 999 種類登録できること。
1-2-9	1 検査依頼における共通セットは 10 種類登録できること。
1-2-10	1 セットあたりの検査項目は 100 項目登録できること。
1-2-11	1 検査依頼における診療科の検査セットを登録できること。
1-2-12	セット検査は、共通セットごと、診療科ごとに登録できること。
1-2-13	1 検査依頼に 99 種類検査容器が登録できること。
1-2-14	ワークシートコードは半角英数で登録数は 999 種類とし、桁数は初期設定で決定できること。
1-2-15	精度管理試料は 999 種類まで登録できること。
1-2-16	検査材料コードは半角英数 3 桁で登録できること。
1-2-17	診療科コード、病棟コードは半角英数字 6 桁で登録できること。
1-2-18	報告書コードは半角英数字 2 桁で登録できること。
1-2-19	基準値チェックは、性別かつ年齢別に設定が可能であること。
1-2-20	異常値チェックは、性別かつ年齢別に設定が可能であること。
1-2-21	医師コードは半角英数字 10 桁で登録できること。
1-2-22	自動的に計算する必要がある検査項目は計算式・要素をマスターで設定することにより自動計算できること。
1-2-23	自動計算項目を含む依頼の場合、必要な要素に結果が入力されると計算が行われ、自動計算項目に計算結果が反映されること。
1-2-24	自動計算に必要な要素が不足している場合、自動計算項目を検査済みまたは未検査として登録できること。また、設定した結果コメントが反映できること。
1-2-25	自動計算に必要な要素に計算できない結果が入力された場合、任意に設定した結果を計算結果として反映できること。
1-2-26	自動計算に必要な要素の条件によって、任意の結果を計算結果として反映できること。

1-2-27	自動計算に必要な要素を未検査に戻した場合、自動計算項目の結果も未検査に戻されること。
1-2-28	自動計算項目に直接結果を入れた場合、計算式を優先させるか直接入力した結果を優先させるか選択できること。
1-2-29	1 検体における検体依頼コメントは 5 種類登録できること。
1-2-30	1 検体における検体報告コメントは 5 種類登録できること。
1-2-31	1 検体における検体依頼フリーコメント、検体報告フリーコメントは各 1 個登録できること。
1-2-32	1 画像につき、検索用コメントを 5 個まで登録できること。
1-2-33	結果コードは半角英数字 4 桁で登録できること。
1-2-34	1 検査依頼における報告フリーコメントおよび依頼フリーコメントの登録数・文字数は HIS 側の要件にあわせることができること。
1-2-35	検査結果値の桁数は、10 桁以上登録できること。(HIS ベンダーと協議の上決定)
1-2-36	1 検査項目に検査結果は 99 回まで測定履歴を保存できること。
1-2-37	1 検査結果における結果コメントは 2 個登録できること。
1-2-38	1 検査結果における結果フリーコメントは 3 個登録できること。
1-2-39	数字結果入力時にマスター条件により自動で結果コメントを付随できる。(ルールチェック)
1-2-40	数字結果は小数点桁数をマスターで設定できること。
1-2-41	検査項目に対し、数値・定性の入力結果を制限できること。
1-2-42	バーコードラベルは容器単位で設定ができること。
1-2-43	バーコードラベルのレイアウト作成は、プレビュー画面を表示し確認しながら、印字アイテム、印字位置の登録ができること。
1-2-44	検査情報は検体検査サーバで一元管理できること。
1-2-45	システム上の操作記録は、参照・追加・更新・削除の履歴が保存できること。
1-2-46	全ての画面で操作ヘルプを表示できること。
1-2-47	使用頻度の高い業務画面のショートカットキー (アイコン) を配置し、画面呼出が容易にできること。
1-2-48	ユーザー毎にアプリ操作権限が設定できること。
1-2-49	休祝日、病院休日を管理するマスター画面を有し、設定された情報は各業務画面に反映できること。
1-2-50	患者情報を取り扱う業務画面間は、表示中の患者 ID や属性情報を継承し、遷移できること。

1-2-51	検査依頼番号の付与は、診療科別、病棟別、入外別、端末別に柔軟な採番管理ができること。
1-2-52	設定により、過去、当日、未来の検査依頼日に対して、依頼登録と同時に患者および検体受領、到着確認ができること。
1-2-53	検査結果は数値・文言・波形・画像に対応可能できること。 (分析装置からの取り込み・カメラや顕微鏡からの取り込み、委託検査からの取り込みに対応)
1-2-54	検査結果をもとに以下の関連している患者属性情報が更新されること。 血液型、感染有無
1-2-55	検査項目情報の表示順は、検査項目コード順・マスター設定値による表示順のいずれかで設定できること。
1-2-56	外注項目は、マーク（情報アイコン）をつけわかりやすく表示すること。
1-2-57	未検査分の翌日持ち越しの対象のワークシートに関して、持ち越しできること。
1-2-58	検体毎に割り振られる到着部門番号で各業務の運用ができること。
1-2-59	1 検査依頼に対する到着部門番号を一覧表示できること。
1-2-60	患者情報を表示する画面では、最新の血液型検査結果を確認できること。
1-2-61	異材料の管理は以下の機能を有すること。
1-2-62-1	・ 検体ラベル印字に対応できること。
1-2-63-2	・ 前回値検索に対応できること。
1-2-64-3	・ データチェックに対応できること。
1-2-65	各情報は、外部メディアにバックアップできること。バックアップした情報の復元・参照は容易に実施することができること。
1-2-66	MEDIS の標準連携フォーマット (HL7) に対応できること。
1-2-67	MEDIS の標準マスター (JLAC10) に対応できること。
1-2-68	波形データは、HIS 及び検査情報 Web システムへ送信できること。
1-2-69	画像データは、HIS 及び検査情報 Web システムへ送信できること。
1-2-70	施設用 NEC バーコードに対応すること
1-2-71	結果コードを元に異常値判定が実施できること
1-2-72	部門シーケンスの付番を 1 部門 1 オーダとできること 1 部門に複数検体あった場合、検体ごとに付番するのではなく 1 部門に 1 つのシーケンスを付番できること
1-2-73	各業務画面に共通して基準値外、異常値外の背景色をシステム内で共通して変更できること
1-2-74	以下の特殊計算式の対応が可能なこと

	・ ALBI スコア
1-2-75	サーバ再起動は年 1 回で良いこと。
1-2-76	各種アプリケーションを複数表示可能なこと。
1-2-77	ルーチン帯と時間外で到着確認アプリを別で設け、分注ラベルの出力を制御することができること。
1-2-78	以下の特殊計算式の対応が可能なこと ・ ALBI スコア ・ eGFR 換算値 ・ CCR 対比重補正
1-3	コミュニケーション機能
1-3-1	業務の情報共有のためにユーザー単位にメッセージまたは掲示板機能が利用できること。
1-3-2	メッセージの公開範囲は全ユーザー・指定ユーザー・自ユーザーが選択できること。
1-3-3	ログインユーザー単位の設定ができること。
1-4	検査依頼業務
1-4	検査依頼入力
1-4-1	患者検索は、患者 ID を指定する事で過去の検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、診療科、病棟、指示医の確認ができること。
1-4-2	検査依頼日が過去、当日、未来の登録ができること。
1-4-3	依頼登録時に、依頼内容に沿った未印刷ラベルのみが印刷されること。
1-4-4	検査依頼の新規登録ができること。
1-4-5	検査依頼項目の追加、修正、削除ができること。
1-4-6	検査依頼属性の入力ができること。
1-4-7	検査属性の修正ができること。
1-4-8	検査依頼日・依頼番号を指定し削除できること。また、依頼を削除する際は確認ダイアログを表示し注意喚起できること。
1-4-9	削除された依頼の削除復帰ができること。
1-4-10	検査項目のツリー上で項目至急、削除の指定および解除、材料の変更ができること。
1-4-11	設定により属性情報の表示項目、レイアウト、変更可否、必須区分が設定できること。
1-4-12	コメントの入力ができること。
1-4-13	検査依頼時に新規患者の登録ができること。
1-4-14	検査依頼時に患者属性の修正ができること。
1-4-15	依頼番号は目的別に番号帯を分けて設定、管理ができること。
1-4-16	任意の依頼番号で検査依頼の登録ができること。

1-4-17	部門依頼として、上位システムからの検査依頼に影響しない任意のオーダー番号が設定できること。(オーダー番号発番に関しては、HIS との調整で決定する)
1-4-18	依頼区分は通常・至急を選択できること。
1-4-19	至急検査については設定により依頼単位・検体単位・検査項目単位に対応できること。
1-4-20	検査依頼時に検体ラベル、分注ラベル、フリーラベルが発行できること。
1-4-21	検査依頼時に同時出力ラベルの出力先を選択できること。
1-4-22	未来分の検査依頼は予約ラベルの対象にできること。
1-4-23	患者個人情報保護対策(覗き見防止など)として、画面および印刷物の個人を特定できる情報(患者 ID、患者カナ名、患者名、生年月日)が設定された文字列でマスクされること。
1-4-24	検索条件で指定した検査依頼一覧を確認できること。(依頼一覧画面)
1-4-25	HIS から依頼された検査依頼項目を修正できること。
1-4-26	依頼頻度の高い検査項目を、複数のタブに分けて表示でき、依頼画面に反映できること。また、設定された一覧から検査依頼項目をマウス選択することで検査依頼ができること。
1-4-27	検査依頼項目指定時に材料を指定できること。また、基本材料以外にもマスターで設定されている指定材料へ変更できること。
1-4-28	依頼単位が至急の場合、一括で検査項目の至急区分(至急、通常)へ反映できること。
1-4-29	検査依頼項目として単項目、親子項目、セット検査の入力・修正・削除、及びセット検査内の変更・削除ができること。
1-4-30	検査項目のツリー上でセット検査に含まれる項目、親項目に含まれる子項目を展開表示できること。
1-4-31	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、バーコード、HIS 番号を指定し、依頼が表示できること。
1-4-32	身長・体重・尿量を入力可能とし、入力値は検査結果として計算式に利用することができること。
1-4-33	患者 ID が HIS に登録されていない場合でも、仮 ID 運用により依頼が登録できること。
1-4-34	仮 ID から本 ID への変更が容易に行うことができること。
1-4-35	HIS との通信により、検査依頼項目と患者属性情報を受信できること。また、受信した依頼は属性情報の編集可否を制御できること。
1-4-36	部門依頼の検査結果についても HIS の連携仕様に準拠した形で送信でき

	ること。
1-4-37	検査項目のツリー上で区分（削除、至急、追加項目）が判断できること。
1-4-38	結果・検査項目・属性の条件を組み合わせる事で、検査項目の自動追加ができること。（ルールチェック機能）
1-4-39	依頼内容登録後に検体ラベル、分注ラベル、フリーラベルが発行できること。
1-4-40	新規登録時、患者 ID を入力することにより、同一検査依頼日で検査依頼が存在していた場合、その旨を示すメッセージ表示ができ、既存検査依頼の検査依頼日、依頼番号、検査項目を一覧表示できること。
1-4-41	設定画面を呼び出し、依頼タブに表示する検査項目を追加・変更・削除できること。
1-4-42	指定した患者（ID）の検査履歴が表示できること。
1-4-43	依頼受付時に血ガス採取部位違いの依頼を自動で複数作成できること
1-4-44	依頼受付時に電子カルテからの依頼は検査区分が至急でも項目至急を考慮して更新できること
1-4-45	特定の検査項目を到着した際に、結果入力画面を起動できること
1-5	依頼一括入力
1-5-1	件数の指定で、科病棟、検査依頼項目を指定し同一内容の検査依頼を一括登録できること。
1-5-2	依頼日、依頼番号の範囲を指定し、任意の検査項目を一括で追加依頼できること。
1-5-3	依頼一括入力の最大項目数は 999 まで対応できること
1-6	属性一括入力・修正
1-6-1	検査依頼日、依頼番号、削除表示有無などを指定して検査依頼の属性・コメントを一覧形式で表示し、入力・修正できること。
1-6-2	編集された依頼に目印があること。
1-7	ラベル出力
1-7-1	<p>ラベル出力は、「個別指定」、「検体指定」、「範囲指定」、「コントロール・フリー」、「旧システムラベル変換」の指示区分が選択できること。また、指示区分により、以下の抽出区分が指定できること。</p> <p>個別指定の抽出区分は、依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号</p> <p>範囲指定の抽出区分は、依頼日・依頼番号（範囲指定）、検査日・部門・到着部門番号（範囲指定）、到着日・到着番号（範囲指定）</p> <p>検体番号の抽出区分は、検体番号</p>

	<p>コントロール・フリーの抽出区分は、発行フォーマット</p> <p>旧システムラベル変換の抽出区分は、旧システム検体番号</p>
1-7-2	範囲指定の場合は以下の機能を有すること。
1-7-2-1	・入外区分、診療科もしくは病棟、出力順（指定番号順、診療科もしくは病棟順）、ラベル印刷状況（初回印刷もしくは再印刷）の指定ができること。
1-7-3	ヘッダーラベルには依頼に紐付く採取ラベルの一覧や属性情報が印字できること。
1-7-4	検体指定の場合、入力された検体番号（バーコード）と同一ラベルが印刷できること。ラベル印刷状況に関係なく印刷できること。
1-7-5	依頼日、依頼番号、容器コード、検査依頼内容容器番号、固定数字などから任意に選択して、バーコード情報とでき、NW7 の形式で印刷できること。また、形式はシステム内で統一すること。
1-7-6	検査システム内で設定した情報を採取ラベルに印字できること。
1-7-7	外部委託検査業務で検体準備リスト、外部委託ラベルを印刷できること。
1-7-8	最新の患者移動情報を反映した患者所在場所へラベル発行ができること。（HIS との移動情報連携時に限る）
1-7-9	コントロール・フリーラベルは検体番号、ラベルコメントを任意に指定して印刷できること。
1-7-10	予約ラベルの印刷条件は、依頼日（範囲指定）、依頼番号（範囲指定）、患者 ID、入外区分、病棟もしくは診療科（複数指定）、出力先区分（初回出力、再出力）、並び順（依頼番号順、ベッド番号順、患者 ID 順、患者カナ名順）が指定できること。
1-7-11	ラベル発行指示の指示区分変更時に初期フォーカスの位置を変更できること
1-7-12	指示区分が再発行の場合は出力前に確認メッセージを表示しない設定にできること
1-7-13	分注バーコード有無が無しの場合は分注ラベルを発行しないこと
1-7-14	<p>尿分注の場合、外注項目も対象とできること</p> <p>（このとき対象となった外注項目は外注ラベルでは出力されない。）</p>
1-7-15	ラベル出力時の部門シーケンスはゼロサプレスできること
1-8	検体受領

1-8-1	検体受領と同時に検体到着確認処理も行えるようにできること。
1-8-2	テクノメディカ社との RFID 連携による一括検体読込みが行えること。
1-9	検体到着確認
1-9-1	バーコードリーダーまたは手入力による検体到着確認ができること。
1-9-2	到着確認可能期間が設定できること。また、可能期間外の到着確認処理についてはエラーとできること。
1-9-3	到着確認時のエラー通知方法は、メッセージポップアップ有無・アラート音有無を設定できること。
1-9-4	検体番号を指定し、検査依頼の採取容器の一覧を確認できること。
1-9-5	ルールチェック（ルール判定）を実施する機能を有すること。 ルール判定項目として検査項目の有無、容器、感染有無、患者コメント、依頼コメント、検体コメント、前回検査からの期間が参照できること。ルールチェックのアクション機能を有すること。メッセージ、効果音ができること。
1-9-6	設定により到着確認時にワークシートが自動作成されること。
1-9-7	端末単位での到着可能部門の設定ができること。
1-9-8	当日以外の検体を到着確認時にはその旨を示すメッセージ表示ができること。
1-9-9	到着確認時に到着部門番号を付番できること。付番された番号が画面上で確認できること。
1-9-10	到着部門番号は、最大 999 部門、各部門ごとに最大 99,999 件の採番ができること。
1-9-11	到着確認時に検査部門（院内検査）用の検体分注ラベルを、保存方法別に複数印刷できること。
1-9-12	各種コメントなどの関連情報を表示できること。また、検体毎にコメント入力できること。
1-9-13	身長、体重、蓄尿量、蓄尿時間、蓄尿開始日、蓄尿開始時間の結果を入力できること。入力端末、表示属性は設定により決定できること。
1-9-14	到着確認できた検体が一覧表示されること。なお、到着確認直後の検体を選択状態になること。
1-9-15	同一依頼、同一容器が 2 回目の到着確認時にはその旨を示すメッセージ表示ができること。
1-9-16	選択した到着済み検体に関連する属性情報、検査項目情報、TAT 情報、容器情報が表示できること。
1-9-17	ラベル出力時に、出力先の選択ができること。

1-9-18	項目選択時に詳細情報を表示できること (項目名、項目マーク、採取量、分注容器、分注量、分注マーク)
1-9-19	検体到着確認画面から、ショートカットキーでラベル発行業務を起動できること
1-9-20	特定の端末では当日外検体のメッセージを表示しない設定ができること
1-9-21	検体ごとに部門シーケンスを表示できること
1-9-22	検体ごとの情報表示に、保存と分注有無を表示できること
1-9-23	検体ごとに至急マークを明確に表示できること
1-9-24	検体ごとにエラーメッセージを明確に表示できること
1-10	検体到着状況表示
1-10-1	検索するための付加条件として、以下の指示ができること。含む、含まないも指定できること。 ・容器グループ、到着区分（到着済み、一部未到着、至急のみ）、診療科、病棟、入外区分
1-10-2	検索セットマスターで設定をしている任意の検索セットで検索できること。
1-10-3	依頼日、依頼番号を指定後、検体を選択して到着確認できること。
1-10-4	検体バーコードラベルの発行状況の確認ができること。
1-10-5	検査前日や翌日の状況表示ができること。
1-10-6	検体の取消しができること。取り消した検体の復帰もできること。
1-10-7	検体のコメント情報が入力及び参照ができること。
1-10-8	採取検体の情報・分注検体の情報・採血開始日時を表示できること
1-10-9	常に部門シーケンス番号を表示できること
1-10-10	検体到着画面を指定の秒数で繰り返し自動更新できること
1-11	ワークシート
1-11-1	マスター設定により、ワークシートを自動（検体到着時、分注情報受信時）に作成できること。
1-11-2	検査日、ワークシートコードを指定し、ワークシートを作成できること。
1-11-3	検査日、ワークシートコードを指定により、作成済みワークシートが表示されること。
1-11-4	前日から持ち越しされた検査のワークシートは、当日の先頭でシーケンスが採番されること。
1-11-5	マスターで設定された精度管理検体が自動でワークシートシーケンスへ差し込まれること。
1-11-6	印刷レイアウトは、印刷指示画面よりマスターで設定されたレイアウト

	から変更できること。
1-11-7	印刷は A4 横レイアウトや B4 横のレイアウトに対応できること。
1-11-8	作成順が手動登録順のワークシートは、バーコードを読み込んだ順に作成対象一覧に登録してワークシートを作成できること。
1-11-9	初回、強制印刷の場合は、依頼および検体一覧に表示されているワークシートシーケンスで印刷されること。前回値、検査済み項目の印刷有無を選択できること。
1-11-10	印刷は、検査依頼番号順・到着部門番号順を指定できること。(設定はマスターにて実施)
1-11-11	ワークシートの印刷先プリンターを任意に選択できること。
1-11-12	印刷状況を管理し、ワークシート印刷状況確認ができること。
1-11-13	ワークシートの手動印刷時に範囲指定が可能であること
1-12	分析装置連携
1-12-1	接続対象分析装置及び記載要件を満たすこと。
1-12-2	生化学・免疫血清部門
1-12-2-1	①ドライケム 2 台
1-12-2-2	②LABOSPECT-008 α 1 台
1-12-2-3	③LABOSPECT-006 1 台
1-12-2-4	④ARCHITECT i1000 1 台
1-12-2-5	⑤Alinity ii 1 台
1-12-2-6	⑥AH8290 2 台
1-12-2-7	⑦CTE880 1 台
1-12-3	血液部門
1-12-3-1	①XN-3000 1 台
1-12-3-2	②XN-1000 1 台
1-12-3-3	③DI-60 1 台
1-12-3-4	④CN-6000 2 台
1-12-3-5	⑤Quick eye8 1 台
1-12-3-6	⑥ACURE 血ガスシステム 1 式
1-12-4	一般部門
1-12-4-1	①MT9000 1 台
1-12-4-2	②US3500 1 台
1-12-4-3	③US1200 1 台
1-12-4-4	④ルミパルス G1200 1 台
1-12-4-5	⑤UF-5000 1 台

1-12-4-6	⑥OC センサーPLEDIA	1 台
1-12-4-7	⑦Gene Xpert	1 台
1-12-4-8	⑧Film Array Toech システム	1 式
1-12-4-9	⑨浸透圧測定装置	1 式
1-12-4-10	⑩尿素呼気試験（ピロリ検出用）	1 式
1-12-5	その他接続システム	
1-12-5-1	①尿分注装置	1 式
1-12-5-2	②LabFLEX3500 分注器	1 式
1-12-5-3	③NEC 医事システム	1 式
1-12-5-4	④輸血管理システム	1 式
1-12-6	分析装置からのエラーコードを取り込み、表示できること。	
1-12-7	分析装置からのエラーコードにより、結果の変換および再検判定ができること。	
1-12-8	分析装置のエラー処理は以下の機能を有すること。	
1-12-8-1	・レンジオーバーエラー等の場合、結果値（上限値）に変換し取り込みが可能であること。	
1-12-8-2	・エラー情報は優先順位を付けて取得ができること。	
1-12-8-3	・分析装置エラー情報等をユーザーに通知できること。（設定による制御）	
1-12-9	フラグメッセージの受信設定をマスターで完結できること。	
1-12-10	フラグメッセージを検査項目の結果として受信できること。	
1-12-11	到着部門番号・ワークシートシーケンスを元に、依頼情報問合せ受信、測定依頼送信、測定結果受信の連携ができること。	
1-12-12	マッチング機能を使用して、分析装置側の測定順・検体検査システム側の受信順・ラックおよびラックポジションを元に、分析装置と依頼情報問合せ受信、測定依頼送信、測定結果受信の連携ができること。	
1-12-13	再検値は検査項目単位で管理できること。	
1-12-14	測定単位、検査項目単位、検査項目グループ単位のいずれかで患者検体を自動登録する設定ができること。	
1-12-15	検査依頼情報を設定により事前に分析装置に送信できること。但し、分析装置の仕様による。	
1-12-16	分析装置への測定依頼情報の送信が自動処理できること。	
1-12-17	測定依頼を送信した検査項目の測定完了予定日時がマスターの設定に従って自動で計算されること。	
1-12-18	分析装置からの測定結果情報を自動処理できること。	
1-12-19	スカッタグラム、ヒストグラムの受信に対応できること。	

1-12-20	スキヤッタグラム画像取り込みは以下の機能を有すること。
1-12-20-1	・全自動尿中有形成分分析装置のスキヤッタグラム画像および撮像画像の取込みができること。
1-12-20-2	・スキヤッタグラム画像は、測定回数最大 99 回まで保存でき、運用時の結果値確認回数は別途設定できること。
1-12-21	画像、文書（PDF・FTP・XML・HTML）の受信に対応できること。
1-12-22	未到着検体のバーコードが分析装置から送信されてきた場合、測定対象がある検体については自動で検体到着を実施できること。
1-12-23	分析装置毎に測定項目の追加・削除ができること。（マスター設定）
1-12-24	各分析装置への依頼送信は以下の機能を有すること。
1-12-24-1	・初回検査前に前回値をもとにした希釈情報を送信できること。また、分析装置ごとに検体単位・検査項目単位に希釈倍率の指示設定ができること。
1-12-24-2	・前回値もしくは直前値に次回希釈が登録されていた場合はマスターの設定に従って分析装置固有のコードへ変換されて送信されること。前回値の希釈倍率の使用有無はマスターで設定できること。
1-12-24-3	・検査依頼の検査項目であっても特定の条件に該当する場合は、自動的に検査項目の追加・測定指示ができること。
1-12-25 -	各分析装置からの結果受信は以下の機能を有すること。
1-12-25-1	・受信した希釈情報を測定回ごとに保存できること。
1-12-25-2	・受信した希釈情報を検査項目情報の結果値として取得・表示ができること。
1-12-25-3	・測定した分析装置名称を検査項目情報の結果値として取得・表示ができること。 ※号機情報も含む
1-12-25-4	・測定結果に対してリアルタイムに再検チェックを行い、分析装置に再検査指示を送信できること。
1-12-25-5	・検査項目別、測定回別に測定分析装置名称（号機）、ラック、ラックポジション情報の取得・表示ができること。
1-12-25-6	・検査依頼のない測定結果の取り込みを行った場合、後で入力した検査依頼に割付を行うことができること。
1-12-25-7	・検査依頼がある項目に対して、測定結果値が返却されない場合、特定の結果値を自動登録できること。
1-12-25-8	・既に結果承認済の項目に対して結果受信した場合、測定結果として保存はするが報告値を書き換えないようにできること。

1-12-25-9	・尿一般、血液部門の分析装置連携においては、結果値・フラグメッセージにより目視検査の依頼が自動追加できること。また、検査項目の追加、コメント登録等の操作も自動でできること。
1-12-25-10	・受信した測定結果をもとにマスターの設定（チェック有無、チェック順、再検・保留判定）通りに自動で再検チェックが実行されること。
1-12-25-11	・パニック値の検査結果を受信した場合、ユーザーに通知できること。
1-13	進捗状況表示
1-13-1	進捗状況は全体サマリ・グループ別の進捗状況を個別に表示する画面を有すること。また、それぞれの進捗状況画面（全体サマリ・グループ別）への切り替え表示が容易にできること。
1-13-2	全体サマリの進捗状況表示で、遅延・パニック状況をマークでわかりやすく表示できること。
1-13-3	全体サマリの進捗状況表示で、採血・前処理・測定・承認の工程別進捗が視覚的に表示できること。
1-13-4	全体サマリの進捗状況表示で、部門別の測定完了予定時刻の表示ができること。
1-13-5	進捗状況一覧から検査結果、結果コメント、結果フリーコメントを表示できること。
1-13-6	進捗状況（グループ）でユーザー毎に表示するグループを保存できること。
1-13-7	画像がある場合、検査項目列のツールチップに画像種別を表示すること。
1-13-8	進捗状況画面で検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号、分析装置受信順、ワークシート、ラックの範囲、バーコードの個別による検索・表示ができること。また、表示順番として、検査依頼番号順、到着部門番号順を指示できること。
1-13-9	検索の付加条件として、目視情報、至急有無、診療科、病棟、入外区分、指示医、患者 ID、予約区分、テストデータ含む・含まないを指定できること。また、検査進捗状況（全検体、検体未受領、検体未到着、未検査、検査中、保留有、再検有、再検中、再検済、要ダブルチェック、一部検査済、検査済、仮承認済、承認済、排他済）でも絞り込みができること。含む、含まないも指定できること。
1-13-10	一覧は検査依頼番号順、到着部門番号順、到着順、分析装置受信順、ワークシート順、ラック順で並び替え表示ができること。また、ソートもできること。
1-13-11	経過時間は通常、至急によって工程毎に遅延の閾値の時間を設定でき、超過した場合はマークによる通知ができること。また、遅延の起点は到

	着時間と診療予約時間で切り替えができること。
1-13-12	進捗状況にて該当患者オーダーをダブルクリックすることにより、結果承認・詳細進捗画面に遷移し検査項目一覧および項目別進捗を表示できること。
1-13-13	一覧は指定した時間間隔で最新情報に更新されること。
1-13-14	グループ別進捗状況一覧から一括承認を行う対象を指定し、一括で承認・仮承認・再検確定・承認解除ができること。
1-13-15	複数の部門・グループセットの進捗状況を同一端末で、表示できること。
1-13-16	グループ別進捗状況一覧にて通常検体、未登録検体別に表示できること。
1-13-17	グループ・検査依頼番号単位、グループ・分析装置測定番号単位、グループ・ワークシートシーケンス指定分析装置・検査依頼番号単位で一括承認ができること。
1-13-18	結果承認時に空白結果があった場合でも、特定の結果コードが登録済の場合は確認メッセージを表示しないこと
1-13-19	経過時間(TAT)の時間算出範囲については受付～到着までと設定できること
1-13-20	オンライン状況表示の表示グループを一括で設定できること
1-13-21	未検査状況表示の検索条件が部門受付の場合、部門シーケンス番号を表示できること
1-13-22	経過時間(TAT)の時間算出範囲については受付～到着、到着～測定開始、測定開始～測定完了までと設定できること
1-14	結果入力業務
1-14-1	結果承認・詳細進捗
1-14-1-1	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号を指定し結果入力できること。また、結果入力は保存登録、仮承認登録、承認登録ができること。
1-14-1-2	検体バーコード番号・HIS オーダ番号・患者カナ名を指定し、検査依頼情報を呼び出し結果入力できること。
1-14-1-3	あらかじめ設定したルールチェックに該当した場合、警告表示できること。(保存・仮承認・承認時)
1-14-1-4	検査結果情報と患者属性情報が同時に参照できること。
1-14-1-5	結果情報の表示対象が選択できること。 マーク、検査項目コード、材料名、コメント、コメント説明、前回値表示
1-14-1-6	検体毎の検査進捗が表示できること。

1-14-1-7	検査項目別の進捗状況が表示できること。
1-14-1-8	検査結果・前回値・再検値を表示できること。また、前回値は最新の情報を反映できること。
1-14-1-9	検査結果・結果コメント・結果フリーコメントを登録・修正・削除できること。
1-14-1-10	結果コメントの入力候補をウィンドウから選択できること。
1-14-1-11	検査項目ごとに必要な結果コードを設定し、入力候補ウィンドウに表示できること。
1-14-1-12	測定履歴が表示できること。その中から報告値を選択できること。
1-14-1-13	再検の検査結果は設定された再検回数分の結果値が上書きされず取り込むことができること。
1-14-1-14	承認対象とする再検値のグループを選択し一括で承認できること。グループ内項目が再検の場合、グループ内の他項目も同じ再検チェックを適用できること。
1-14-1-15	再検値を確認する場合、検査項目単位で結果値が確認できること。
1-14-1-16	項目コード、項目名称、容器、材料、負荷シーケンス、保存方法、最低採取量、単位、結果形式、基準値低値、基準値高値、再検値低値、再検値高値、パニック値低値、パニック値高値、到着日時、承認日時、報告日時等の情報が表示できること。
1-14-1-17	依頼単位に報告フリーコメントが登録できること。
1-14-1-18	患者属性情報（身長、体重、注意情報など）、感染情報の修正ができること。
1-14-1-19	TAT 情報・IP メッセージ・容器情報・患者属性・依頼情報・採取情報・分注情報の表示ができること。IP メッセージは優先順位をつけて、表示順を設定できること。また、特定の IP メッセージは文字色を変更し強調表示ができること。
1-14-1-20	容器情報の詳細として検体残量情報としての検体画像の表示ができること。（収納装置画像連携ありの場合）
1-14-1-21	血液像・尿沈渣・骨髓像カウンターなど各カウンター画面にワンクリックで遷移できること。
1-14-1-22	測定エラーの場合、画面にアラートが表示されること。
1-14-1-23	測定を複数回行った場合、各測定結果ごとのエラー内容を表示できること。また、エラーの詳細表示、確認ができること。
1-14-1-24	バーコードエラーなどにより検査依頼へ自動紐付できない検査結果を、任意の検査依頼に手動で紐付できること。

1-14-1-25	検査結果一覧に表示する検査項目を全項目表示に切り替えができること。 また、同一日の別検査結果を参照できること。
1-14-1-26	検査結果一覧に画像表示有無を表示できること。
1-14-1-27	測定履歴毎に検査結果情報、スキヤッタグラム、ヒストグラム、画像が表示できること。
1-14-1-28	スキヤッタグラム画像については当日の 3 回分の表示ができること。また、スキヤッタグラム画像時系列は 20 回分の表示ができること。
1-14-1-29	スキヤッタグラム画像は詳細画面を表示することができること。
1-14-1-30	波形、グラフの情報を表示できること。
1-14-1-31	検査依頼の時系列表示モードへ切り替えができること。また、時系列表示は指定した項目のみ表示する時系列機能を有すること。
1-14-1-32	再検中・再検済み・保留の状態切り替えができること。
1-14-1-33	検査結果情報の再検状態を解除できること。
1-14-1-34	検査項目の分析装置依頼送信状態を解除できること。
1-14-1-35	再検対象検査項目は、検査項目別に再検理由が表示できること。
1-14-1-36	基準値判定が必要な検査項目を手入力した場合、基準値判定を行うことができること。
1-14-1-37	手入力した結果は、進捗状況表示のステータス（状況）に反映することができること。
1-14-1-38	報告値として選択した検査結果は、背景色を変えることで判別できること。
1-14-1-39	該当検査依頼の登録、報告書発行を画面遷移にて呼び出しできること。 また、承認解除・再承認にて HIS へ再結果送信できること。
1-14-1-40	検査値、結果コメントは一括入力が可能であること。
1-14-1-41	検体毎に検体報告コメント 5 個、検体報告フリーコメント 1 個が入力できること。
1-14-1-42	患者属性を反映した状態で報告書出力画面へ遷移し報告書出力・FAX 送信指示ができること。
1-14-1-43	結果が 1 画面に表示しきれない場合、画面のスクロールにより結果を確認することができること。
1-14-1-44	マスター設定により依頼のない結果を分析装置から受信した場合、参照項目として表示できること。
1-14-1-45	パニック値発生時に報告先の担当医師・連絡先が表示できること。また、担当医師への連絡の要不要選択および対処コメントの入力管理ができること。

1-14-1-46	結果値を判断するための参照項目として、基準値範囲が表示できること。
1-14-1-47	ダブルインプットチェック（2 人の入力結果に差異が無いことで承認可能）ができること。
1-14-1-48	検査項目ごとに定量変換の設定ができること。
1-14-1-49	検査結果情報の表示、非表示を切り替えできること。
1-14-1-50	検査結果情報の次回希釈は任意に変更できること。また、マスター設定値からの任意選択ができること。
1-14-1-51	検査結果情報の手動希釈倍率を設定できること。
1-14-1-52	検査項目に入力された希釈倍率に応じて結果値が計算できること。
1-14-1-53	結果承認画面から血液像目視キャンセルを行えること
1-14-1-54	血液像目視キャンセルの場合、目視項目に指定の結果とコメントを登録できること
1-14-1-55	結果値に小文字を登録できること
1-14-1-56	ICG の結果入力についてグラフ表示をしながら入力できること
1-14-1-57	異常値の場合に項目ごとに指定した結果コメントを登録できること
1-14-1-58	HBs 抗原陽性患者の HB 確認試験の結果値から判定結果を自動判定できる仕組みを取り入れること
1-14-1-59	梅毒 TP 陽性患者の TP 中和確認試験の結果値から判定結果を自動判定できる仕組みを取り入れること
1-15-1	ワークシート結果入力
1-15-1-1	検査日・ワークシートコードを指定し、検体情報（材料名、依頼有無）が表示でき、検査結果と結果コメントの編集・登録・削除ができる。また、Enter キー押下時のカーソルが横移動、縦移動の切り替えができること。
1-15-1-2	マスター設定にて、デフォルト結果値を設定し、入力省略できること。 （例：便潜血 － など）
1-15-1-3	検査結果の確認時に前回値を表示できること。
1-15-1-4	結果コメントは入力候補ウィンドウから選択できること。
1-15-1-5	検査項目ごとに必要な結果コードを設定し、入力候補ウィンドウに表示できること。
1-15-1-6	結果コメントを 2 個以上登録できることができること。
1-15-1-7	表示しているワークシート別結果入力から、時系列画面に遷移し、患者情報を反映した時系列情報を参照できること。
1-15-1-8	ワークシート別結果入力から、問い合わせ画面に遷移し、検査依頼の全項目が参照できること。
1-15-1-9	検体単位に検体依頼コメント、検体コメント、検体フリーコメントが登

	録できること。
1-15-1-10	設定した結果チェックに該当した場合、登録時に警告表示できること。
1-15-1-11	特定の結果コード、結果コメントが登録されている場合は、結果承認が行えないよう設定できること。
1-15-1-12	患者属性を反映した状態で報告書出力画面へ遷移し報告書出力・FAX 送信指示ができること。
1-15-1-13	保存登録、仮承認登録、承認登録ができる。
1-15-1-14	ワークシートの患者名にはカナ指名を表示できること
1-15-1-15	ワークシートに部門シーケンス番号を表示できること
1-16	カウンター業務
1-16-1	血液像カウンター
1-16-1-1	依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号、検体番号のいずれかを指定して検査依頼を呼び出し、カウンター業務ができること。
1-16-1-2	目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示されること。ただし、目視対象外でも目視を実施できること。
1-16-1-3	血液像キャンセル時、自動で登録される結果値を設定できること。検査項目の依頼有無を考慮できること。
1-16-1-4	一覧表示された検査依頼から選択してカウンター業務ができること。
1-16-1-5	カウント結果はカウント・参照入力および直接入力することができること。
1-16-1-6	カウントを実施した技師をログインしているユーザーから取得し、カウント履歴上に保存できること。
1-16-1-7	Other 項目キーを選択したら項目を追加できること。
1-16-1-8	カウントは加算、減算の切り替えができること。
1-16-1-9	レイアウトのキー毎に打鍵音をユーザーが設定できること。加算と減算で別の音を設定できること。
1-16-1-10	分析装置から受信したフラグメッセージが測定毎に表示できること。時系列も参照できること。
1-16-1-11	Other 項目に対応できること。また、時系列も参照できること。
1-16-1-12	分析装置画像（スキャッタグラム・ヒストグラム）が測定毎に表示できること。また、時系列も参照できること。
1-16-1-13	分析装置画像に加え、撮影画像の取り込み表示ができること。
1-16-1-14	画像取り込み時に画像コメントを入力し保存できること。また、画像にタグ付けし教育・発表資料への 2 次利用が容易にできること。（画像管理

	業務)
1-16-1-15	カウント時に機械値を参照できること。
1-16-1-16	未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に結果登録ができること。検査項目の依頼有無を考慮できること。
1-16-1-17	100%補正を行う設定ができること。
1-16-1-18	EBL のカウントができること。ただし白血球分類の%に含めないこと。
1-16-1-19	破碎赤血球 (%) の結果値により、定性値 (-、±、+) へ変換する設定ができること。
1-16-1-20	形態コメントの入力ができること。
1-16-1-21	一覧表示された検査依頼から検査依頼内の全項目表示ができること。(問い合わせ業務)
1-16-1-22	カウント項目、結果値の時系列が参照できること。
1-16-1-23	血液像の項目を追加しカウントできること。
1-16-1-24	カウント値を保存できること。
1-16-1-25	カウント履歴にあるものを編集した場合、新規のカウントとして保存されること。
1-16-1-26	保留登録したオーダを呼び出して継続カウントまたは登録ができること。
1-16-1-27	保留登録したオーダを呼び出して削除ができること。
1-16-1-28	指定した基本カウント数まで達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して継続カウントするか選択できること。
1-16-1-29	追加カウントは、指定した追加カウント数に達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して再び継続カウントするか選択できること。
1-16-1-30	カウント値は個数と%が同時に確認できること。
1-16-1-31	基本カウント、追加カウント数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できること。
1-16-1-32	未カウント時 (カウント値が 0) でも承認できること。
1-16-1-33	報告値は個数と%どちらを採用するか設定できること。
1-16-1-34	報告書発行状況の確認および報告書出力ができること。
1-16-1-35	テストモードで起動しカウントを行うことができること。
1-16-1-36	参照項目 (結果変更不可) を設定できること。
1-16-1-37	グループ別進捗状況表示画面で、目視対象の依頼を一覧表示し、検査状況の確認ができること。また、グループ別進捗状況表示画面からカウンター画面に遷移できること。
1-16-1-38	依頼の検索にて測定シーケンスで検索し指定のカウンター入力画面を表

	示できること
1-16-1-39	6DIFF の結果がある場合、目視項目の結果として 6DIFF の結果を表示できること
1-16-1-40	カウント上限到達後の確認メッセージを表示できること
1-16-1-41	カウント上限到達後の確認メッセージで はい/いいえ 選択後入力フォーカスを目視項目にあてられること
1-16-1-42	カウント上限到達後の確認メッセージでデフォルトは「はい」を選択している状態にできること
1-16-1-43	過分葉核好中球がある場合、SEG は SEG+過分葉核好中球を報告できること
1-16-1-44	血液以外の項目についてもカウンター画面に表示できること
1-16-1-45	血液像目視の条件は属性フラグで判断できること
1-16-2	骨髓像カウンター
1-16-2-1	依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号、検体番号のいずれかを指定して検査依頼を呼び出し、カウンター業務ができること。
1-16-2-2	目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示されること。ただし、目視対象外でも目視を実施できること。
1-16-2-3	一覧表示された検査依頼から選択してカウンター業務ができること。
1-16-2-4	カウント結果はカウント・参照入力および直接入力することができること。
1-16-2-5	カウント項目に対し、結果コメントを入力できること。また、複数のカウント項目に対して、同一の結果値および結果コメントを一括で入力できること。
1-16-2-6	カウント項目は Mieroid、Erythroid、Other が表示できること。
1-16-2-7	カウントを実施した技師をログインしているユーザーから取得し、カウント履歴上に保存できること。
1-16-2-8	レイアウト、キー配列はユーザーが設定でき、ユーザー単位に設定内容を保持できること。
1-16-2-9	カウントは加算、減算の切り替えができること。
1-16-2-10	レイアウトのキー毎に打鍵音をユーザーが設定できること。加算と減算で別の音を設定できること。
1-16-2-11	100%に含まない項目を設定できること。(鉄染色等の手入力項目が設定できること)
1-16-2-12	手入力項目のみ承認できること。

1-16-2-13	撮影画像の取り込み表示ができること。
1-16-2-14	画像取り込み時に画像コメントを入力し保存できること。また、画像にタグ付けし教育・発表資料への２次利用が容易にできること。(画像管理業務)
1-16-2-15	未カウント項目に対して、設定された結果値を自動的に結果登録ができること。検査項目の依頼有無を考慮できること。
1-16-2-16	指定した基本カウント数まで達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して継続カウントするか選択できること。
1-16-2-17	追加カウントは、指定した追加カウント数に達したときにブザー音を鳴らし、一時停止して再び継続カウントするか選択できること。
1-16-2-18	カウント値は個数と%が同時に確認できること。
1-16-2-19	Mieroid 合計数・Erythroid 合計数・M/E 比 (Mieroid 合計数/Erythroid 合計数) が自動計算され、表示されること。また、任意に項目単位でグルーピングを行い、小計できる機能を有すること。
1-16-2-20	M/E 比・合計数・小計を直接入力できること。
1-16-2-21	一覧表示された検査依頼から検査依頼内の全項目表示ができること。(問い合わせ業務)
1-16-2-22	カウント項目、結果値の時系列が参照できること。
1-16-2-23	骨髓像の項目を追加しカウントできること。
1-16-2-24	カウント履歴毎に所見入力し、保存できること。
1-16-2-25	所見テンプレート入力対応 (所見、文章、テンプレート) できること。
1-16-2-26	1 検査依頼あたり所見保存件数が最大 20 件対応できること。
1-16-2-27	カウント値を保存できること。
1-16-2-28	カウント履歴にあるものを編集した場合、新規のカウントとして保存されること。
1-16-2-29	骨髓像目視カウンターは骨髓像管理番号 (システム通し番号、年番号、年月番号) による登録・管理ができること。
1-16-2-30	保留登録したカウント履歴を呼び出して継続カウントまたは登録ができること。
1-16-2-31	保留登録したカウント履歴を呼び出して削除ができること。
1-16-2-32	基本カウント、追加カウント数に関係なく、任意のタイミングでカウントを終了できること。
1-16-2-33	報告値は個数と%どちらを採用するか設定できること。
1-16-2-34	報告書出力ができること。(画像含む)
1-16-2-35	報告書へ印刷する画像の選択ができること。

1-16-2-36	テストモードで起動しカウントを行うことができること。
1-16-2-37	グループ別進捗状況表示画面で、目視対象の依頼を一覧表示し、検査状況の確認ができること。また、グループ別進捗状況表示画面からカウンター画面に遷移できること。
1-16-2-38	結果承認時に結果の承認と同時に WEB システムへ画像を送信できること
1-16-2-39	報告書作成時は PDF ファイルの作成まで可能であること
1-16-2-40	報告書は常に上書き作成し、画像管理にも上書きで登録できること
1-16-3	尿沈渣カウンター
1-16-3-1	依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、到着日・到着番号、検体番号のいずれかを指定して検査依頼を呼び出し、カウンター業務ができること。
1-16-3-2	目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示されること。ただし、目視対象外でも目視を実施できること。
1-16-3-3	一覧表示された検査依頼から選択してカウンター業務ができること。
1-16-3-4	カウント結果は参照入力およびキー入力することができること。
1-16-3-5	カウント項目に対し、結果コメントを入力できること。また、複数のカウント項目に対して、同一の結果値および結果コメントを一括で入力できること。
1-16-3-6	カウントを実施した技師をログインしているユーザーから取得し、カウント履歴上に保存できること。
1-16-3-7	レイアウト、キー配列はユーザーが設定でき、ユーザー単位に設定内容を保持できること。また、材料ごとに違うレイアウトおよびキー配列の設定ができること。
1-16-3-8	Other 項目に対応できること。時系列も参照できること。
1-16-3-9	分析装置から受信したフラグメッセージが測定毎に表示できること。時系列も参照できること。
1-16-3-10	分析装置から受信したスキャッタグラムやヒストグラムが測定毎に表示できること。時系列も参照できること。
1-16-3-11	分析装置画像に加え、撮影画像の取り込み表示ができること。
1-16-3-12	画像取り込み時に画像コメントを入力し保存できること。また、画像にタグ付けし教育・発表資料への 2 次利用が容易にできること。(画像管理業務)
1-16-3-13	カウント時に機械値を参照できること。
1-16-3-14	未カウント検査項目に対して、設定された結果値を自動的に結果登録が

	できること。検査項目の依頼有無を考慮できること。
1-16-3-15	分析装置からの検査結果・前回値を確認することができること。また、機械値と目視値の前回値取得元が異なる場合に通知する機能を有すること。
1-16-3-16	一覧表示された検査依頼から検査依頼内の全項目表示ができること。(問い合わせ業務)
1-16-3-17	カウント項目、結果値の時系列が参照できること。
1-16-3-18	カウント項目が任意に設定できること。
1-16-3-19	入力する結果の候補が表示できること。
1-16-3-20	カウント値を保存できること。
1-16-3-21	カウント履歴にあるものを編集した場合、新規のカウントとして保存されること。
1-16-3-22	保留登録したカウント履歴を呼び出して継続カウントまたは登録ができること。
1-16-3-23	保留登録したカウント履歴を呼び出して削除ができること。
1-16-3-24	尿検査業務機能として、尿定性と尿沈渣のクロスチェックができること。
1-16-3-25	報告書発行状況の確認および報告書出力ができること。
1-16-3-26	テストモードで起動しカウントを行うことができること。
1-16-3-27	カウント時に入力が必要な項目の設定ができること。
1-16-3-28	参照項目（結果変更不可）を設定できること。
1-16-3-29	グループ別進捗状況表示画面で、目視対象の依頼を一覧表示し、検査状況の確認ができること。また、グループ別進捗状況表示画面からカウンター画面に遷移できること。
1-16-3-30	結果のコピー機能を有すること。
1-16-3-31	結果登録時に結果形式のチェックは行われないこと
1-16-4	汎用カウンター
1-16-4-1	上記以外のカウンター画面（穿刺液など）を作成できること。
1-16-4-2	特殊染色（鉄、PAS、エステラーゼ染色など）に対応できること。
1-16-4-3	依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号で検索できること。
1-16-4-4	目視対象の依頼ではない場合、注意喚起のメッセージが表示されること。ただし、目視対象外でも目視を実施できること。

1-16-4-5	<p>NAP スコア計算用のカウント機能を保持すること。</p> <p>計算式：</p> $\text{Score} = \text{Score1} + \text{Score2} + \text{Score3} + \text{Score4} + \text{Score5} + \text{Score6}$ $\text{Rate} = \text{Data2} + \text{Data3} + \text{Data4} + \text{Data5} + \text{Data6}$ $\text{Score1} = \text{Data1}(\text{カウント値}) * 0$ $\text{Score2} = \text{Data2}(\text{カウント値}) * 1$ $\text{Score3} = \text{Data3}(\text{カウント値}) * 2$ $\text{Score4} = \text{Data4}(\text{カウント値}) * 3$ $\text{Score5} = \text{Data5}(\text{カウント値}) * 4$ $\text{Score6} = \text{Data6}(\text{カウント値}) * 5$
1-16-4-6	検査依頼内全結果を表示できること。また、検体情報や TAT 等の補足情報も参照できること。
1-16-4-7	カウント履歴にあるものを編集した場合、新規のカウントとして保存されること。
1-16-4-8	カウント結果は参照入力および直接入力・キー入力することができること。
1-16-4-9	カウントを実施した技師をログインしているユーザーから取得し、カウント履歴上に保存できること。
1-17	画像管理
1-17-1	外部メディアに保存された画像情報の取込みができること。また、指定した検査依頼に紐付けて保存できること。
1-17-2	画像ファイルをシステムへ登録できること。登録は外部委託検査、カウンター、画像管理業務から可能とすること。
1-17-3	画像ファイルは、外部委託検査会社からの画像報告（画像形式：PNG、JPG、JPEG、BMP、TIFF）や別紙報告（PDF）の登録ができること。
1-17-4	オーダ毎に画像をグルーピングして管理できること。
1-17-5	取り込んだ画像の削除ができること。
1-17-6	1 画像につき、コメントが 5 個まで登録できること。
1-17-7	取り込んだ画像の編集（文字・矢印・テキスト・図形）ができること。
1-17-8	画像を編集した後に、上書き保存できること。
1-17-9	任意の画像ファイルを検査情報 Web システム、HIS に送信できること。送信後に取消しできること。（HIS ベンダーの仕様による）
1-17-10	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、属性情報での検索ができること。また、画像種類と、画像に登録された検索用コメントでの検索ができること。
1-17-11	画像にタグ付けし教育・発表資料への 2 次利用が容易にできること。

1-17-12	部門シーケンス表示の場合も、受付日と受付番号は表示できること
1-17-13	骨髓像シーケンス番号を表示できること
1-18	データチェック
1-18-1	基準値（HL）チェックができること。
1-18-2	今回値の異常値チェック（男女あわせて年齢段階の設定）の機能を有すること。
1-18-3	パニック値チェックができること。
1-18-4	前回値とのチェック（経過日数別、性別ごとに設定可能）の機能を有すること。
1-18-5	特定の結果値が登録されている場合は、前回値チェックを実施しないこと。
1-18-6	前回値の取得は検査項目単位に対応できること。
1-18-7	前回値と差チェック（経過日数別、性別ごとに設定可能）の機能を有すること。
1-18-8	前回値と比チェック（経過日数別、性別ごとに設定可能）の機能を有すること。
1-18-9	定性値は定性値として、基準値、警告値、パニック値、前回値エラーが設定できること。
1-18-10	今回値の基準値チェック（性別かつ年齢別に設定可能）の機能を有すること。
1-18-11	今回値の再検値チェック（性別かつ年齢別に設定可能）の機能を有すること。
1-18-12	変動差チェック（平均値・前回値、性別ごとに設定可能）の機能を有すること。
1-18-13	変動比チェック（平均値・前回値、性別ごとに設定可能）の機能を有すること。
1-18-14	分析装置エラー情報やフラグメッセージでデータチェックできること。
1-18-15	データルールチェックは以下の機能を有すること。
1-18-15-1	・データルールチェックは、適用可否を設定できること。
1-18-15-2	・データルールチェックは、ルール判定項目（結果値、分析装置エラー情報、患者属性、フラグメッセージなど）により、アクション（再検対象、保留、確定、依頼の追加、結果値のセットなど）を決定することができること。その設定はマスターに登録できること。
1-18-15-3	・データルールチェックのルール判定は検査項目単位で設定ができること。

1-18-15-4	・データルールチェックのルール判定がどの条件に該当したかを画面上で確認（チェックフロー）できること。
1-18-15-5	・データルールチェック条件に該当した場合は、自動的に別項目（ダミー項目等）へ結果値のコピーができること。
1-18-15-6	・データルールチェックに属性の組み合わせができること。
1-18-15-7	・ルールの設定条件は検査結果以外に、再検状態、結果コメント、測定分析装置などを使用できること。
1-18-15-8	・ルール判定後の動作として、状況グループ指定での操作ができること。
1-18-15-9	・ルール判定後の動作として、検査項目ごとに「再検にする・依頼を追加する・コメントをセットする・次回希釈予定倍率をセットする」など設定できること。
1-18-16	結果チェックカテゴリーは、以下の条件設定機能を有すること。
1-18-16-1	・検査分野・疾病・特定の患者などカテゴリーで分類し、結果値範囲・差や比でチェックすることができること。条件として、年齢、性別、診療科、病棟、指示医、至急区分、入外・依頼コメント、患者コメント、フリーコメント、疾患種別、身長、体重、透析前後、妊娠週、血液型、その他など設定できること。
1-18-16-2	・カテゴリーに該当する患者ごとに閾値による条件設定ができること。
1-18-16-3	・データルールチェック機能と併用することができること。
1-18-17	結果を手入力する場合、分析装置からのエラー情報以外のデータチェックを適用する事ができること。
1-18-18	データチェック後の関連処理機能
1-18-18-1	・再検査や精度管理実施時のエラーチェック判定に基づき、エラーリスト画面を表示する機能を有すること。
1-18-18-2	・データチェック機能の評価する時に、実際の検体を流すことなくチェックの妥当性を評価する「再検シミュレーション機能」を有することで、どのチェックに掛かったか確認できること。
1-18-18-3	・データルールチェックでエラーとなった条件の確認を行うため、チェックフロー（フローチャートイメージ）が表示できること。
1-18-18-4	・パニック値が判断可能なこと。
1-18-18-5	・尿定性で閾値を超えた結果があった場合、自動で尿沈渣の依頼ができること。
1-19	再検シミュレーション
1-19-1	過去に蓄積された膨大なデータを活用した検査結果シミュレーション機能を有すること。

1-19-2	再検シミュレーションは以下の機能を有すること。
1-19-2-1	・ 基準値の検証
1-19-2-2	・ 再検率の検証
1-19-2-3	・ 上下限値の検証
1-19-2-4	・ 結果チェックカテゴリー別に現状の閾値（今回値再検レンジ、前回値再検レンジ、前回値差・比）による再検率のシミュレーションができること。
1-19-2-5	・ 結果チェックカテゴリーが無い場合は検査項目指定による再検率のシミュレーションができること。
1-19-3	検査日期間での集計が可能なこと。
1-19-4	指定する分析装置は、導入されている全ての分析装置が対象であること。
1-19-5	分布図表示の条件として以下の指定ができること。
1-19-6	抽出した情報を印刷することができること。
1-19-7	抽出した情報をファイル出力（CSV ファイル） できること。
1-20	外部委託業務
1-20-1	データ交換は MEDIS 準拠フォーマットで連携（依頼ファイルの作成）ができること。
1-20-2	検体準備リスト、外部委託ラベルを印刷できること。
1-20-3	外部委託先毎に検体到着済みの対象を抽出し、対象一覧に表示できること。また、対象一覧には、外部委託先、抽出シーケンス、バーコード、患者 ID、患者カナ名、診療科、病棟、指示医、状況が表示できること。
1-20-4	抽出順は検査依頼番号、検体到着順、到着部門コード順が指定できること。
1-20-5	依頼ファイルの作成指示は、抽出日・委託先・作成区分（作成・再作成）が指定できること。また、依頼ファイル作成後に、検査項目の追加が行われた場合、追加分の項目情報のみ依頼ファイルが作成されること。
1-20-6	外注業者毎に検査項目コード変換形式を設定できること。
1-20-7	指定範囲に該当する検査項目情報を出力できること。
1-20-8	検査項目単位で検体準備リスト、依頼リスト、依頼ファイルの出力できること。また、検体準備リスト、依頼リストは初回、再、履歴印刷に対応できること。依頼リストは部数指定で印刷可能なこと。
1-20-9	依頼ファイルの作成をせず、一覧表示、依頼リストの出力ができること。
1-20-10	外部委託業者から返却された結果ファイルの取り込みができること。結果ファイルをもとに結果リストを印刷できること。また、データ交換は MEDIS 準拠フォーマットで連携（検査結果の取り込み）ができること。

1-20-11	取り込み時に取り込み結果をリスト出力できること。
1-20-12	結果ファイルの取り込み時に検知したエラー内容を、ユーザーに通知できること。
1-20-13	結果ファイルを複数回取り込みした場合、検査結果の上書き可否を設定できること。
1-20-14	依頼、検査項目に対して、文書（PDF）、画像の取り込みができること。
1-20-15	外部委託先、状況（検体準備リスト未出力、依頼ファイル未作成、依頼ファイル作成済み、中間報告、最終報告）、抽出日範囲で検索でき一覧表示できること。
1-20-16	外部委託業者への提出、外部委託業者からの受け取りのタイミングで出力されるリストへ、施設担当者と外部委託業者担当者、コメントを記入できる枠を設定できること。
1-20-17	外注検査の結果返却予定日が表示できること。施設の休日を考慮した予定日であること。
1-21	台帳業務
1-21-1	部門、依頼科、病棟、対象容器、対象項目種別（緊急区分、入外区分、院内外）を指定し、以下の帳票を出力できること。
1-21-1-1	・検査依頼台帳
1-21-1-2	・結果台帳
1-21-1-3	・未検査リスト
1-21-1-4	・ワークシートリスト
1-21-1-5	・検体受領リスト
1-21-1-6	・採取指示リスト
1-21-2	検査依頼台帳の出力条件は、属性情報の緊急度区分、入外区分、診療科、病棟と他に検査項目展開有無（親項目、セット項目の子展開）が指定できること。
1-21-3	結果台帳の出力形式は、検査依頼番号別、到着部門番号別が指定できること。
1-21-4	出力形式が依頼番号別、属性情報チェック用の場合、検査依頼日、依頼番号の指定ができること。
1-21-5	出力形式が到着部門番号別の場合、検査日・部門・到着部門番号が指定できること。
1-22	報告書
1-22-1	指定された報告書を、報告区分（中間報告、完了報告、強制報告、履歴印刷）及び範囲（検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号）を

	指定し印刷できること。また、出力条件として、診療科、病棟および患者IDを指示できること。
1-22-2	履歴報告は印刷指示を行った履歴情報より再印刷できること。
1-22-3	報告書に印字する情報やレイアウトは帳票設定にて設定が可能であり、プレビュー確認できること。
1-22-4	所定の報告書レイアウトへ骨髄像報告書が印刷できること。
1-22-5	蛋白分画波形データを印刷できること。
1-22-6	クロスミキシング報告書を作成できること ■条件■ <ul style="list-style-type: none"> ・報告日を印字できること ・部門シーケンスを印字できること ・WEBシステムへ送信できること
1-22-7	機械沈渣の結果と目視結果がある場合、報告書の機械沈渣の結果項目欄に「目視参照」という結果で印字できること
1-22-8	骨髄像シーケンス番号を印字できること
1-22-9	血液型報告書は結果により背景色を変更できること
1-23	パニック値管理
1-23-1	パニック値の情報を抽出し、画面表示できること。
1-23-2	パニック値が発生した場合に、報告有無、報告先等の情報を登録・管理できること。
1-24	リアルタイム報告書作成
1-24-1	至急報告およびFAX報告は、報告書マスターに設定された対象項目がすべて承認された時点で自動印刷できること。
1-24-2	個別または複数のFAXを送信指示できること。
1-24-3	FAX報告は送信先FAXに送信できなかった場合、アラートで知らせることができること。
1-25	報告状況表示
1-25-1	至急対象有無、属性情報、報告書毎の状況が一覧表示できること。
1-25-2	状況表示の一覧から個別または複数の中間報告、完了報告の印刷指示ができること。
1-26	帳票設定
1-26-1	帳票の用紙サイズ、余白などの設定ができること。
1-26-2	マスターで印字する検査項目を設定できること。
1-26-3	マスターで依頼があったものだけ印刷する設定ができること。
1-26-4	参照項目のみの依頼の場合、報告書を印刷しない設定ができること。

1-26-5	検査項目名、結果、HL マーク、結果コメント、患者属性、検査属性などの印刷位置設定ができること。
1-26-6	報告書レイアウトをプレビューし、確認できること。
1-27	問い合わせ業務
1-27-1	問い合わせ業務（個別）
1-27-1-1	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、バーコード、HIS 番号、診療科、患者 ID、患者カナなど複合条件指定で検索し一覧より選択した患者検査情報を参照できること。
1-27-1-2	検査履歴で選択した依頼情報の検査結果明細画面が表示できること。
1-27-1-3	時系列結果の表示項目は、検索セット（表示項目をマスターで設定）で絞り込みができること。また、検索セットの指定条件を保存できること。
1-27-1-4	一覧表示された検査依頼から検査依頼内の全項目表示ができること。また、同一日の別検査結果を参照できること。（問い合わせ業務）
1-27-1-5	検査結果明細画面は、属性情報、検査項目情報、検査結果情報が表示できること。
1-27-1-6	検査結果明細は、検査項目の、院内・外注項目問わず「基準値・単位・採血管・材料などの項目詳細情報を参照できること。
1-27-1-7	検査画像を参照できること。
1-27-1-8	報告書発行状況の確認および報告書出力ができること。
1-27-1-9	検査結果明細は、属性情報と検査結果情報を印刷できること。
1-27-1-10	基準値と異常値について結果の背景色を設定できること
1-27	問い合わせ業務（時系列）
1-27-2-1	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、バーコード、HIS 番号、診療科、患者 ID、患者カナなど複合条件指定で検索できること。
1-27-2-2	時系列結果の表示項目は、検索セット（表示項目をマスターで設定）で絞り込みができること。また、検索セットの指定条件を保存できること。
1-27-2-3	時系列結果表示は、システム設定に従い指定された日数の前回値を表示できること。
1-27-2-4	時系列結果表示は、透析前・後情報が一致した検査履歴のみ表示するか、全て表示するか選択できること。
1-27-2-5	時系列結果の表示項目は、緊急度区分（通常・至急）の判断ができること。
1-27-2-6	検査属性、コメント、補足情報を参照できること。
1-27-2-7	時系列結果表示にて指定された検査項目の折れ線グラフ（X 軸＝時間経過、Y 軸＝結果値）、レーダーチャート（軸＝基準値と結果値）を表示で

	きること。
1-27-2-8	該当する世代の情報で検査情報を表示できること。
1-27-2-9	時系列のヘッダー情報に医師名を表示できること
1-28	統計
1-28-1	日報、月報、年報の印刷ができること。
1-28-2	以下に記載する統計資料が出力できること。
1-28-2-1	・ 検査部門別点数
1-28-2-2	・ 診療科・病棟別点数
1-28-2-3	・ セット別項目件数
1-28-2-4	・ 診療科・病棟別項目件数
1-28-2-5	・ 指示医別項目件数
1-28-2-6	・ 検査部門別項目件数
1-28-2-7	・ 入院外来別項目件数
1-28-2-8	・ 外部委託先別項目件数
1-28-3	項目別件数の集計対象をマスターで設定できること。
1-28-4	包括保険点数集計が可能であること。
1-28-5	日報、月報、年報のファイル出力ができること。
1-29	汎用データ抽出
1-29-1	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号・指示医を指定し検索できること。また、属性情報、検体情報、検査結果情報で検索できること。
1-29-2	依頼項目に関わらず、至急・入外・診療科・、検体不備（凝固、量不足等）の情報が登録されている依頼、検体、検査項目等の条件での抽出ができること。また、抽出した情報は画面表示でき表示された情報を印刷、ファイル出力（CSV 形式）できること。
1-29-3	抽出条件をシステム単位で保存でき、次回から保存した条件を使用可能なこと。
1-29-4	抽出時に指定された属性情報が画面表示、ファイル出力が可能なこと。
1-29-5	検査コメントを抽出することができること。
1-29-6	感染症情報を抽出することができること。
1-29-7	検査項目、検査項目ごとの材料・検査結果、コメント（患者コメント、受付コメント、検体コメント、検体フリーコメント等）、キーワードを指定し検索できること。
1-29-8	検査結果情報の検索は、1 検査項目に対して材料・結果値（定量・定性）・結果コード・結果コメントから条件を複数指定できること。また、

	AND/OR 条件を指定できること。
1-29-9	データ抽出情報をファイル出力する場合、同一ファイル名が存在する場合は上書き確認メッセージが表示できること。
1-29-10	夜間当直の検査運用時間帯を設定することで、その時間帯の検査実施内容をファイルに出力できること。
1-29-11	該当検査依頼の全ての結果を印刷できること。(検査結果台帳)
1-30	精度管理業務
1-30-1	オンライン分析装置の管理検体による次の管理要件を満たすこと。
1-30-1-1	・ Xbar-R 管理図
1-30-1-2	・ ツインプロット管理図
1-30-1-4	・ Xbar-Rs 管理図
1-30-1-5	・ L-J 管理図
1-30-1-6	・ コントロールモニター画面 (機器間差対応)
1-30-2	精度管理データはリアルタイムで監視し、警告発生時にエラー表示ができること。
1-30-3	精度管理データは分析装置からオンラインで取込むことができること。取込んだ精度管理データの修正、削除 (無効化) ができること。
1-30-4	精度管理データは、トレンド・シフトの傾向を確認ができること。
1-30-5	精度管理データは、手動で結果追加できること。
1-30-6	精度管理データのコメントは、測定データ単位に登録できること。また、項目単位に結果コメントを登録できること。
1-30-7	L-J 管理図、XBar-Rs-R 管理図の印刷ができること。
1-30-8	精度管理のロットの SD 値算出は、管理期間指定ができること。
1-30-9	過去ロットは画面操作により別グラフに描画ができること。
1-30-10	精度管理コントロールモニターから、各種精度管理画面へ画面切替できること。
1-30-11	精度管理コントロールモニターは、任意のコメントが入力された場合、画面にて「コメントの目印」を表示できること。
1-30-12	精度管理コントロールモニターは、標準偏差が $\pm 2SD$ 、 $\pm 3SD$ 以上の場合は、背景色により判別できること。
1-30-13	同一検査項目・同一試薬であってもモジュールが異なる場合は、それぞれで精度管理できること。(ただし、分析装置からモジュールの情報を受け取ることができる場合に限る)
1-30-14	測定を複数回行った場合、各測定結果毎のマルチルールチェック内容を表示できること。また、エラーの詳細表示、確認ができること。

1-30-15	L-J 管理図は、精度管理のマルチルールチェック状況の目印を表示できること。
1-30-16	X-R 管理図は以下の機能を有すること。
1-30-16-1	・一覧から選択したグラフを並べて表示し、グラフ・データの印刷、データの出力（CSV、エクセル）ができること。また、日内データ、日差データ、日差データ+日内データを対象として表示できること。
1-30-17	事前に設定した分析装置、コントロール別の X-R 管理グラフを呼び出せること。
1-30-18	精度管理測定用のバーコードによる分析装置測定指示送信および結果登録ができること。
1-30-19	QC ラベルの印刷ができること。
1-30-20	コントロールモニター、L-J 管理図間および、X-Rs-R 管理図・キューサム管理図の間で検索条件を引継ぎ遷移できること。
1-30-21	精度管理マスターは以下の機能を有すること。
1-30-21-1	・ロット切替機能を持ち、使用前に管理物質の値を入力できること。
1-30-21-2	・血球計測用コントロールの管理値精度管理マスターへの登録は、管理値用媒体からのアップロードにより取込ができること。
1-30-22	精度管理試料の測定結果について、自動日差計算する・しないを設定できること。
1-31	TAT
1-31-1	TAT 情報を画面表示できること。
1-31-2	画面表示された情報をファイル出力（CSV 形式）できること。
1-31-3	各処理時に TAT 情報の取得（依頼登録時刻、検体到着時刻）と記録ができること。 ・検体到着、依頼登録、依頼確定、分析装置依頼送信、外部委託依頼、結果登録、結果確定、結果送信、報告などの各種時刻情報
1-31-4	検索条件は、システム単位で保存し、読み込みできること。
1-31-5	検索は、検査依頼日、分析装置、属性情報、検体情報、検査項目情報、曜日指定（平日・半休日・休日）、グラフ表示条件（時間帯、時間間隔、曜日）により、TAT 情報をグラフで表示できること。
1-31-6	総検査時間だけでなく、任意で設定した時間管理（前処理時間・初回検査時間など）ができ、各々の所要時間を確認できること。
1-31-7	TAT グラフは依頼単位、工程単位ごとに作成できること。
1-31-8	TAT グラフは、工程別作業時間、外来採血数等を含めて作成できること。
1-31-9	2 つの期間の TAT グラフを重ねて表示できること。

	・業務改善の結果をグラフで、改善前と後のグラフを同時に表示し比較できること。
1-31-10	TAT 情報において、時間帯を指定し（日中・夜間）（平日・休日）での集計ができること。
1-32	保存検体管理
1-32-1	保存ラックを指定し、バーコードでの自動採番、検査依頼番号により検体を登録できること。
1-32-2	検査依頼日・依頼番号、検査日・部門・到着部門番号、属性情報に合致する情報の検索を行うことができること。
1-32-3	一覧は、属性情報、保存ラックが表示されること。
1-32-4	保存ラック種毎に最大保存検体数を設定ができること。
1-32-5	保存ラック種毎に登録可能な容器情報を指定ができること。
1-33	テスト環境
1-33-1	依頼生成した処理時刻を記録できること。
1-33-2	依頼生成、検体到着確認、ラベル発行、結果登録など運用に関わる確認ができること。
1-33-3	検査依頼を生成する件数を指定できること。
1-33-4	試験用の患者 ID や診療科等は指定することができること。
1-33-5	オーダする診療科、病棟を指定できること。
1-33-6	検体ラベルの発行及び出力先装置を選択できること。
1-34	マスター
1-34-1	患者属性情報の入力、訂正、削除が可能であること。また、登録済みの患者属性情報は、ID 入力時に該当する属性が表示されること。
1-34-2	患者の感染症情報は検査結果と連動し更新されること。
1-34-3	患者の血液型情報は血液型検査結果と連動し更新されること。
1-34-4	ユーザーの権限に沿って、操作（参照、編集・削除、ファイル入出力）の制限ができること。
1-34-5	世代管理が必要なマスターは世代管理され、適用時期を指定できること。
1-34-6	採取量計算は項目加算、容器最大量、最低量＋項目加算の計算に対応できること。
1-34-7	マスターの操作ログ管理ができること。また、マスター編集時の意図・コメントなどを残せるメモ機能を有すること。
1-34-8	マスター整合性チェックが行えること。また、整合性チェック時にエラー表示できること。
1-34-9	一覧形式で容易な操作ができること。検査項目など情報量の多いマスタ

	一は、別途個別の詳細画面の呼出しができること。
1-34-10	変更マスターを業務反映するタイミングを任意に指示できること。
1-35	セキュリティー・トレーサビリティ
1-35-1	ユーザーID とパスワードによってシステムにログインできること。
1-35-2	FeliCa Lite 規格のカードによってシステムにログインできること。
1-35-3	パスワードの長さ・複雑さを設定できること。(最小桁数・アルファベットの大文字小文字・数字・記号を含む含まないを設定できること)
1-35-4	ログインパスワード以下の機能を有すること。
1-35-4-1	・パスワードの有効期限 ON・OFF および有効期限日数の設定ができること。
1-35-4-2	・有効期限 ON の場合、事前アラート ON・OFF および事前通知日数の設定ができること。
1-35-5	パスワードエラー回数を ON・OFF およびエラー回数の設定ができること。また、パスワード更新時の重複チェック(前回パスワードとのチェック)ができること。
1-35-6	個人情報保護対策として、ユーザーID・パスワードによる使用可能業務の権限設定ができること。
1-35-7	操作者を認識し、登録した操作者の権限レベルに応じたメニューを表示することができること。
1-35-8	個人情報保護対策(不正操作防止)として設定されたキーを押下することで、システム操作をロックすることができること。また、ログイン方法と同一の操作でシステム操作ロックを解除できること。
1-35-9	システム操作ロック中、バックグラウンドで稼働しているサービスおよびアプリは継続して稼働できること。
1-35-10	権限は、権限なし、参照、更新、仮承認、承認が設定できること。
1-35-11	一連の検査業務における各工程の作業記録をシステムでログ管理できること。(ユーザーID、作業項目、処理日時、作業端末、患者 ID、診療科コード)
1-35-12	保存したログは、マスターログ、ユーザーログに分類して管理されること。
1-35-13	患者 ID 単位でシステムのログ管理ができること。
1-35-14	通信のトレースログの記録ができ、ログの保存期間を設定できること。保存期間外は削除できること。
1-35-15	通信のトレースログを画面表示可能なこと。
1-35-16	ログは永続保存できること。(ハードディスク容量に依存する)

1-36	システム状況監視機能
1-36-1	システム管理者が常駐業務の通信状況を把握する為の専用画面を有すること。
1-36-2	端末で動作しているサービス（分析装置）一覧が確認できること。
1-36-3	分析装置からのエラー情報はログ機能で統合管理し一つの画面で表示し確認できること。
1-36-4	サービス（分析装置）停止を検知した場合、ユーザーに通知できること。
1-36-5	通信状況を表示できること。
1-36-6	通信状態に異常がある場合、強調表示されること。
1-36-7	起動している端末、システム起動有無、IP アドレスが表示できること。
1-36-8	管理端末から任意で他端末のシステム起動、終了、再起動の指示ができること。
1-36-9	管理端末から任意で他端末のサービス（HIS 連携、分析装置連携、日替り処理等のバックグラウンド処理）の開始、終了が指示できること。
1-37	ラベル発行状況
1-38	HIS 連携
1-38-1	HIS との接続実績が豊富であること。
1-38-2	病院 LAN を介して接続される HIS と検体検査システムとの情報連携は以下の要件を満たすこと。（HIS ベンダーの仕様による）
1-38-3	HIS との接続は、TCP/IP プロトコルによるソケット通信でのデータ連携ができること。
1-38-4	HIS ベンダーが提供する通信フォーマットでの連携に対応できること。
1-38-4-1	・ 検査依頼情報を受信できること。
1-38-4-2	・ 検体到着確認実施報告を HIS へ送信できること。
1-38-4-3	・ 検体ラベル情報を HIS へ送信できること。
1-38-4-4	・ 検査結果情報を HIS へ送信できること。
1-38-5	至急検査は設定により依頼単位・検体単位・検査項目単位に対応できること。
1-38-6	テスト患者 ID に対応できること。
1-38-7	MEDIS・JAHIS の標準仕様や HL-7 に対応できること。
1-39	その他
1-39-1	システム操作補助ツールとしてヘルプ機能を有すること。
1-39-2	操作マニュアルを提供できること。
1-39-3	各種マスターの設定は、ユーザーで操作可能であること。
1-39-4	新規検査項目の追加が容易に行え、使用開始日を指定できること。

1-39-5	検査システム稼動中であっても Excel、Word などのソフトが利用できること。
1-39-6	電子カルテシステムと時刻同期をとること
1-40	保守
1-40-1	保守契約により、専用の電話サポート受付窓口が利用できること。
1-40-2	電話サポート受付窓口は専任体制で設置されており、24 時間 365 日受付ができること。また、電話サポートやリモートメンテナンスサービスの対応についても 24 時間 365 日実施できること。
1-40-3	保守回線を用意する場合は IP-VPN 網で構築すること
2	検査情報 Web システム
2-1	検査情報 Web システム・ソフトウェア要件
2-1-1	基本機能
2-1-1-1	院内端末（電子カルテシステム端末等）から、ブラウザベース（Microsoft Edge）にて本システムを利用できること。
2-1-1-2	ログインユーザーID とパスワードを入力し、ログインに成功した場合のみ患者検索画面もしくはメインメニュー画面に遷移できること。（設定ファイルにより遷移先画面の変更ができること。）
2-1-1-3	ユーザーID に権限を持たせ、機能制限（マスターメンテナンス）を設ける事ができること。
2-1-1-4	システムの操作ログを、必要に応じて確認できること。
2-2	情報共有機能
2-2-1	伝達事項及び添付ファイル（Excel、PDF 等）を掲示板形式で登録変更できること。
2-2-2	伝達事項を掲示板形式で表示できること。
2-2-3	伝達事項に対し表示期間を設定できること。
2-2-4	院内管理各種文書を保存でき、随時利用できること。
2-2-5	ログインユーザー単位での掲示板の未読・既読の管理を行い、既読メッセージを非表示や再表示にできること。
2-2-6	ユーザーの職制（権限管理）に応じ、各業務の CSV、印刷、承認機能の制限ができること。
2-2-7	ユーザーID 毎に参照不可項目、参照不可依頼先を権限設定できること。
2-2-8	ユーザーID 毎に検査項目のセットを設定できること。
2-2-9	作成した検査セットをユーザーID に紐付けることができること。
2-2-10	患者検索画面へ画面遷移できること。
2-2-11	文書管理画面へ画面遷移できること。

2-2-12	個人設定画面へ画面遷移できること。
2-2-13	管理設定画面へ画面遷移できること。
2-2-14	電子カルテやオーダーリング画面との連携の場合、初期画面を結果画面もしくは時系列結果表示画面に設定できること。
2-2-15	現行システムからのデータ移行については、過去 10 年分の移行ができること。
2-2-16	・移行対象は、マスター及び検査データ
2-3	患者検索機能
2-3-1	業務:「検査」を選択した場合、受付日／受付番号／患者 ID／性別／担当医／病棟／診療科／オーダー番号／未参照のみ表示／画像有のみ表示／至急のみ表示の共通検索条件と、材料／採取管 での部門専用検索条件にて検索できること。
2-3-2	患者 ID を指定した検索条件で検索を実行した場合、業務（検査、病理、細菌）問わず対象となる患者の検査履歴の一覧表示できること。
2-3-3	検索結果として検査履歴を表示し、検査進捗状況に応じたマークを表示できること。
2-3-4	検査:患者 ID のリンクをクリックすることで対象となるオーダーの結果明細画面へ遷移できること。
2-3-5	状況マークを選択することで対象となる検査グループの結果明細画面へ遷移できること。
2-4	患者情報機能
2-4-1	部門共通機能
2-4-1-1	・検査結果明細画面へ画面遷移できること。
2-4-1-2	・患者検索画面へ画面遷移できること。
2-4-1-3	・メインメニュー画面へ画面遷移できること。
2-4-1-4	・画像ギャラリー画面へ画面遷移できること。
2-4-1-5	・文書管理画面へ画面遷移できること。
2-4-1-6	・操作ガイド画面へ画面遷移できること。
2-4-2	検査結果明細機能
2-4-2-1	・患者の属性情報として、患者 ID／依頼元／患者氏名／生年月日／担当医／年齢／性別／採取日／オーダー番号を表示できること。
2-4-2-2	・検査結果明細において各検査項目の名称／結果／基準値／単位を表示できること。
2-4-2-3	・検査区分：至急の場合、赤色のラベルで警告を表示できること。
2-4-2-4	・依頼コメント／検体コメント／検査結果コメントを表示できること。

2-4-2-5	・画面表示上限数を超える検査項目結果について、前情報、次情報へ画面遷移できること。
2-4-2-6	・画像（PDF、JPG）がリンクしている結果について、画像ファイルのサムネイル表示ができること。
2-4-2-7	・アイコン表示されている画像を拡大表示することができること。
2-4-2-8	・検査結果の印刷ができること。
2-4-2-9	・検査結果の CSV ファイル出力ができること。
2-4-2-10	・同日複数受付番号が存在する場合、受付番号の指定ができること。
2-4-2-11	・検索セットで検査項目結果の表示や絞込みができること。
2-4-2-12	・検査グループで検査項目結果の表示や絞込みができること。
2-4-2-13	・検査結果明細画面で表示されている情報を今回値として、時系列検査結果を表示できること。
2-4-2-14	・時系列検査結果の操作として、N 回目以降／N 回分での時系列結果表示ができること。
2-4-2-15	・時系列検査結果でソート順番を採取日時・受付日－受付番号での降順・昇順で表示ができること。
2-4-2-16	・時系列検査結果の列での絞り込み表示ができること。
2-4-2-17	・正常値範囲、低値範囲、高値範囲が設定されている場合、指定項目結果をグラフで表示ができること。
2-4-2-18	・正常値範囲、低値範囲、高値範囲が設定されている場合、指定項目結果をレーダーチャートで表示ができること。
2-5	画像ギャラリー機能
2-5-1	患者 ID／業務／画像分類／受付日／受付番号 での検索条件にて検索できること。
2-5-2	検索条件に一致した画像について、サムネイルで表示ができること。
2-5-3	選択した画像について、左右 2 画面表示し画像比較ができること。
2-6	臨床検査支援機能
2-6-1	文書管理画面から登録されたガイドラインを検索する機能を有すること。
3-1	検体検査システム・ハードウェア要件
3-1-1	システムサーバ装置本体を 2 式有すること。
3-1-1-1	OS は、WindowsServer2019Standard 相当を実装していること。
3-1-1-2	CPU は、3.4GHz 以上の性能・機能を有すると判断される CPU を実装していること。
3-1-1-3	メインメモリは 64GB 以上を実装していること。

3-1-1-4	ラック型の機器を選定すること。
3-1-1-5	電源は、AC100V 電源を使用し、また冗長構成とすること。
3-1-1-6	HDD は物理容量 900GB 以上の SAS-HDD を 7 台以上内蔵すること。
3-1-1-7	HDD の回転数は 15,000rpm 以上であること。
3-1-1-8	HDD は RAID5,RAID1+0 の構成であること。
3-1-1-9	サーバの LAN のインタフェースは、1000BASE-T に対応した LAN インタフェースを 7 ポート以上有すること。
3-1-1-10	サーバについては 365 日 24 時間オンコール 7 年保守契約ができること。
3-1-2	業務クライアント装置を 24 式有すること。
3-1-2-1	デスクトップ端末を 22 式、ノート型を 2 式選定すること。
3-1-2-3	CPU は、Core i5-10500T 相当以上の性能・機能を有すると判断される CPU を実装していること。
3-1-2-4	メインメモリは 8GB 以上であること。
3-1-2-5	補助記憶装置は 256 GB 以上の SSD を有すること。
3-1-2-6	LAN インタフェースは 1000BASE-T に対応した LAN インタフェースを有すること。
3-1-2-7	ディスプレイ装置は、22 インチ以上であること。また、解像度は、1920×1080 以上で表示可能であること。
3-1-2-8	スピーカが内蔵されていること。また、キーボード、マウスを有すること。
3-1-2-9	OS は Windows10Professional (64bit) 相当の性能・機能を有すること。
3-1-3	A4 モノクロレーザープリンターを 2 台有すること。
3-1-3-1	インタフェースは、イーサネット (1000TASE-T/100BASE-T/10BASE-T)、USB2.0 に対応していること。
3-1-3-2	給紙は、給紙トレイ 500 枚以上、手差しトレイ : 100 枚以上可能であること。
3-1-4	A4 カラーレーザープリンター1 台を有すること。
3-1-4-1	インタフェースは、イーサネット (1000TASE-T/100BASE-T/10BASE-T)、USB2.0 に対応していること。
3-1-4-2	給紙は、給紙トレイ 500 枚以上、手差しトレイ : 100 枚以上可能であること。
3-1-5	A3 カラーレーザープリンター1 台を有すること。
3-1-5-1	インタフェースは、イーサネット (1000TASE-T/100BASE-T/10BASE-T)、USB2.0 に対応していること。

3-1-5-2	給紙は、給紙トレイ 500 枚以上、手差しトレイ：100 枚以上可能であること。
3-1-5-3	セカンドトレイユニットを要し、B4 印刷にも対応できること。
3-1-6	A4 スキャナーを 1 台有すること。
3-1-6-1	インタフェースは、イーサネット（1000TASE-T/100BASE-T/10BASE-T）、USB2.0 に対応していること。
3-1-6-2	1200dpi 以上の解像度で読み取り可能なこと。
3-1-7	バーコードプリンターを 5 台有すること。
3-1-7-1	用紙は、長さ 7-397mm、幅 22-115mm のロール紙に対応可能であること。
3-1-7-2	印字方式は、感熱方式であること。
3-1-7-3	印字速度は、2.3.4.5.6.7.8 インチ/秒が可能であること。
3-1-7-4	ヘッド密度は、203dpi（8 本/mm）以上であること。
3-1-7-5	インタフェースは、イーサネット（1000TASE-T/100BASE-T/10BASE-T）、USB2.0 に対応していること。
3-1-8	1 次元ハンディバーコードリーダーを 6 台有すること。
3-1-8-1	インタフェースは、USB（HID/COM）に対応していること。
3-1-8-2	読取り方式は、赤色レーザ走査方式であること。
3-1-8-3	走査速度は、100 スキャン/秒以上であること。
3-1-9	2 次元定位置バーコードリーダーを 5 台有すること。
3-1-9-1	インタフェースは、USB（HID/COM）に対応していること。
3-1-9-2	読取り方式は、赤色レーザ走査方式であること。
3-1-9-3	走査速度は、100 スキャン/秒以上であること。
3-1-10	サーバ用の無停電電源装置を 2 台有すること。
3-1-10-1	常時インバータ方式を採用し、電源供給をする機器の総電力容量に対し 5 分以上のバックアップをする機能を有すること。
3-1-10-2	監視機能を有し、無停電電源装置の異常を監視する機能を有すること。
3-1-10-3	ファームウェアは入札時点において公開されている最新のバージョンであると判断されること。
3-1-11	デスクトップ端末用の無停電電源装置を 8 式有すること。
3-1-11-1	入力電圧は AC100V に対応していること。
3-1-12	シリアルデバイスサーバを 10 台以上有すること。
3-1-12-1	イーサネットインタフェースは 100BASE-T 以上で 1 ポート以上有すること。
3-1-12-2	シリアルインタフェースは 4 ポート以上有すること。

3-1-13	Felica カードリーダー/Felica カードを 24 式有すること。
3-1-13-1	通信距離は、約 5mm（機器外装面）に対応できること。
3-1-13-2	インタフェースは、USB（full-speed）を有すること。
3-1-14	1 次元固定式バーコードリーダーを 5 台有すること。
3-2	ネットワーク環境
3-2-1	本システムの稼働に際し必要な下記場所のネットワーク配線を準備すること。
3-2-2	検体検査室・輸血管理室・細菌検査室など端末設置予定エリアのネットワーク配線工事を行うこと。
4	検査 Web システム・ハードウェア要件
4-1	サーバ機器は以下の要件を満たすこと。
4-1-1	システムサーバ装置本体を 1 式有すること。
4-1-2	OS は、WindowsServer2019Standard 相当を実装していること。
4-1-3	CPU は、2.0GHz 以上の性能・機能を有すると判断される CPU を実装していること。
4-1-4	メインメモリは 16GB 以上を実装していること。
4-1-5	ラック型の機器を選定すること。
4-1-6	電源は、AC100V 電源を使用し、また冗長構成とすること。
4-1-7	HDD は物理容量 300GB 以上の SAS-HDD を 4 台以上内蔵すること。
4-1-8	HDD の回転数は 10,000rpm 以上であること。
4-1-9	HDD は RAID5 の構成であること。
4-1-10	サーバの LAN のインタフェースは、1000BASE-T に対応した LAN インタフェースを 2 ポート以上有すること。
4-1-2	サーバ用の無停電電源装置を 1 台有すること。
4-1-2-1	常時インバータ方式を採用し、電源供給をする機器の総電力容量に対し 5 分以上のバックアップをする機能を有すること。
4-1-2-2	監視機能を有し、無停電電源装置の異常を監視する機能を有すること。
4-1-2-3	ファームウェアは入札時点において公開されている最新のバージョンであると判断されること。
4-1-3	サーバについては 365 日 24 時間オンコール 7 年保守契約ができること。
4-2	サポート体制及び窓口
4-2 - 1	保守契約により、専用の電話サポート受付窓口が利用できること。
4-2 - 2	電話サポート受付窓口は専任体制で設置されており、24 時間 365 日受付ができること。また、電話サポートやリモートメンテナンスサービスの対応については平日・営業時間中に実施できること。

5	検査室管理支援システム
5-1	基本仕様
5-1-1	動作環境
5-1-1-1	Web ブラウザで参照できる。 対応ブラウザ : Microsoft Edge、Google Chrome、Safari
5-1-1-2	認証機能を利用できる (ログオン ID、パスワード入力)。
5-1-1-3	各画面で Help ファイルを参照できる。
5-1-1-4	ヘッダーの検索バーでシステム内メニューの検索ができる。
5-1-1-5	システムのフォントサイズの表示について、小・中・大の切り替えができる。
5-2	マスター
5-2-1	マスター一覧
5-2-1-1	システムには以下マスターが存在し、登録できる。
5-2-1-2	承認申請ルートマスター
5-2-1-3	NO 管理マスター
5-2-1-4	取引先マスター
5-2-1-5	出庫先マスター
5-2-1-6	出庫先グループマスター
5-2-1-7	GS1-128 マスター
5-2-1-8	品目マスター
5-2-1-9	品目区分マスター
5-2-1-10	ジャーナルトランザクション管理マスター
5-2-1-11	ロケーションマスター
5-2-1-12	ロケーション品目マスター
5-2-1-13	部門マスター
5-2-1-14	保存方法マスター
5-2-1-15	消費税マスター
5-2-1-16	単位マスター
5-2-1-17	担当者マスター
5-2-1-18	仕入先別品目マスター
5-2-1-19	倉庫マスター
5-2-1-20	システム情報テーブル
5-2-2	品目マスター
5-2-2-1	品目マスターには以下情報を登録できる。
5-2-2-2	品目コード

5-2-2-3	品目漢字名称
5-2-2-4	品目カナ名称
5-2-2-5	品目漢字略名
5-2-2-6	表示順
5-2-2-7	バーコード
5-2-2-8	管理品目コード
5-2-2-9	製造元コード
5-2-2-10	製造元品目コード
5-2-2-11	製造元品目漢字名称
5-2-2-12	製造元品目カナ名称
5-2-2-13	製造元品目漢字略名
5-2-2-14	製造元品目バーコード
5-2-2-15	品目区分
5-2-2-16	規格
5-2-2-17	管理評価単位
5-2-2-18	管理評価単価
5-2-2-19	品目管理部門
5-2-2-20	発注方式コード
5-2-2-21	最大在庫量
5-2-2-22	発注点
5-2-2-23	1 回当り発注数量
5-2-2-24	発注サイクル区分
5-2-2-25	発注サイクル（数）
5-2-2-26	次回発注日
5-2-2-27	前回発注対象日
5-2-2-28	ロケーションフラグ
5-2-2-29	毒劇物フラグ
5-2-2-30	使用期限フラグ
5-2-2-31	LOT 管理フラグ
5-2-2-32	随契フラグ
5-2-2-33	保存方法
5-2-2-34	LOT 使用期限余裕期間
5-2-2-35	品目管理除外品フラグ
5-2-2-36	ABC ランク
5-2-2-37	ABC 割合

5-2-2-38	標準価格
5-2-2-39	入数
5-2-2-40	出庫先グループ
5-2-2-41	出庫先
5-2-2-42	CAL 実施管理フラグ
5-2-2-43	使用開始終了管理フラグ
5-2-2-44	入庫から開始フラグ
5-2-2-45	使用終了自動設定フラグ
5-2-3	担当者マスター
5-2-3-1	担当者マスターには以下情報を登録できる。
5-2-3-2	スタッフ ID
5-2-3-3	ユーザーID
5-2-3-4	ユーザー名
5-2-3-5	パスワード
5-2-3-6	ハッシュタイプ
5-2-3-7	電話番号
5-2-3-8	E メールアドレス
5-2-3-9	部門コード
5-2-3-10	マスタメンテナンスフラグ
5-2-3-11	発注申請フラグ
5-2-3-12	発注権限フラグ
5-2-3-13	入庫権限フラグ
5-2-3-14	出庫要求フラグ
5-2-3-15	出庫権限フラグ
5-2-3-16	在庫権限フラグ
5-2-3-17	毒劇物取扱権限フラグ
5-2-3-18	照会レベル
5-2-3-19	仕入先コード
5-2-4	仕入先別品目修正ツール
5-2-4-1	検索条件（品目管理部門、品目区分、仕入先、基準日、品目コード、品目名、随契）を指定し、仕入先別品目マスターを抽出し、修正を行いたい品目を選択できる。
5-2-4-2	仕入先、発注規格、発注入数、発注単位、標準価格、発注単価、適用開始年月日、適用終了年月日を修正できる。
5-2-4-3	対象として品目に対して、仕入先と適用開始年月日を一括入力できる。

5-2-4-4	編集対象リストをファイル（Excel）出力できる。
5-2-4-5	編集対象ファイル（Excel）を取り込み、マスターに反映できる。
5-2-4-6	編集対象リストを印刷できる。
5-3	ダッシュボード
5-3-1-1	ダッシュボードに表示される品目は、ログインユーザーの部門により該当する品目管理部門のみ表示できる。 尚、ヘッダー部に表示されている部門を変更することで、ダッシュボードに表示される品目を変更することができる。
5-3-2	お知らせメッセージ機能
5-3-2-1	お知らせメッセージを登録できる。
5-3-2-2	お知らせメッセージを変更、削除できる。
5-3-2-3	お知らせメッセージには、タイトル、内容、掲示終了日、公開範囲（全部門または担当部門のみ）が登録できる。
5-3-3	お気に入り機能
5-3-3-1	メニューに表示されている各画面をお気に入り登録でき、ダッシュボード画面から遷移出来るボタンを作成できる。
5-3-3-2	お気に入りを削除できる。
5-3-4	カレンダー機能
5-3-4-1	カレンダーに各種イベントを表示できる。 表示内容：発注情報、納品予定情報、在庫情報、出庫情報、使用期限情報、棚卸実施、任意に登録されたイベント
5-3-4-2	指定した日付に任意のイベントを登録できる。
5-3-4-3	任意のイベントを変更、削除できる。
5-3-4-4	任意のイベントには、タイトル、内容、ジャンプ業務、公開範囲（全部門または担当部門のみ）が登録できる。
5-3-4-5	カレンダーの各日付を選択し、詳細情報を表示できる。
5-3-4-6	カレンダーに表示される各種イベントの表示・非表示を設定できる。
5-3-5	使用期限切迫品一覧
5-3-5-1	使用期限切迫品一覧を表示できる。
5-3-5-2	使用期限切迫品は検索条件（本日から、1週間または2週間または4週間経過）を指定でき、検索できる。
5-3-5-3	表示された品目が使用中かどうか表示できる。
5-3-5-4	一覧表をクリックで使用期限切迫品照会に遷移できる。
5-3-6	納期遅延一覧
5-3-6-1	納期遅延一覧を表示できる。

5-3-6-2	一覧表をクリックで納期遅延照会に移できる。
5-3-7	未承認データ一覧
5-3-7-1	未承認データ一覧を表示できる。
5-3-7-2	一覧表をクリックで発注申請承認に移できる。
5-3-8	発注申請状況一覧
5-3-8-1	発注申請状況一覧を表示できる。
5-3-8-2	一覧表をクリックで発注申請状況照会に移できる。
5-3-9	発注状況一覧
5-3-9-1	発注状況一覧を表示できる。
5-3-9-2	一覧表をクリックで発注状況照会に移できる。
5-4	発注
5-4-1	発注申請
5-4-1-1	発注申請を新規登録できる。
5-4-1-2	発注申請品目を変更、削除できる。
5-4-1-3	要発注品目の抽出ができる。
5-4-1-4	発注品目は検索条件（品目管理部門、品目区分、品目コード、品目名）を指定でき、検索できる。
5-4-1-5	発注申請数を入力できる。
5-4-1-6	申請者備考が入力できる。
5-4-1-7	発注申請一覧表の印刷ができる。
5-4-2	発注承認
5-4-2-1	発注申請を承認、否認できる。
5-4-2-2	発注申請は検索条件（発注申請部門、発注申請期間、品目区分、品目管理部門、状態）を指定でき、検索できる。
5-4-2-3	承認者備考が入力できる。
5-4-2-4	リストの表示内容を印刷できる。
5-4-2-5	承認する発注申請部門は担当者マスターで権限登録ができる。
5-4-3	発注
5-4-3-1	発注申請データから発注を新規登録できる。
5-4-3-2	発注品目を削除、発注数の変更ができる。
5-4-3-3	発注申請データは検索条件（発注申請部門、品目区分）を指定でき、検索できる。
5-4-3-4	申請者備考が入力・変更・削除できる。
5-4-3-5	発注情報ファイル（Excel）を出力できる。
5-4-3-6	発注書を印刷できる。

5-4-3-7	現品票・納品書を印刷できる。
5-4-3-8	システムで発番したバーコードラベルを印刷できる。バーコードラベルは、A4 ラベル用紙またはラベルプリンターから出力ができる。
5-4-3-9	購入依頼書を印刷できる。
5-4-3-10	発注申請未承認データが存在する場合、警告メッセージが表示される。
5-5	入庫
5-5-1	入庫
5-5-1-1	GS1-128 バーコード（二次元と複数行も可）、システムから出力したバーコード、GTIN-13 バーコードを利用し、入庫ができる。 GS1-128 バーコードを使用した場合、使用期限、ロット番号が同時に登録できる。
5-5-1-2	発注情報を検索条件(品目管理部門、品目区分、仕入先、発注番号、品目コード、品目名)を指定して検索し、発注情報から品目を選択して入庫できる。
5-5-1-3	入庫の処理日を指定できる(デフォルト当日)。
5-5-1-4	入庫数を入力できる。
5-5-1-5	入庫単価を入力できる。
5-5-1-6	GS1-128 バーコード以外で入庫した場合、ロット番号と使用期限は手入力できる。
5-5-1-7	リストの表示内容を印刷できる。
5-5-1-8	入庫する品目がロット管理を行う品目の場合、ロット番号が未入力の際は警告メッセージが表示できる。
5-5-1-9	入庫する品目の使用期限をチェックし、使用期限が未入力の場合は警告メッセージを表示し、処理日以前の場合には警告メッセージを表示し入庫しないよう制御できる。
5-5-1-10	入庫する品目のロット番号チェックし、入庫実績が存在しない場合、注意メッセージが表示できる。
5-5-1-11	棚卸指示中の場合、入庫が行えないようロックをかけることができる。
5-5-1-12	入庫情報を変更できる。
5-5-1-13	入庫情報を削除できる。
5-5-1-14	発注情報なしで入庫からの運用ができる。
5-6	出庫
5-6-1	出庫
5-6-1-1	GS1-128 バーコード（二次元と複数行も可）、システムから出力したバーコード、GTIN-13 バーコードを利用し、出庫ができる。

5-6-1-2	入庫情報を検索条件(品目管理部門、品目区分、品目コード、品目名)を指定して検索し、入庫情報から品目を選択して出庫できる。
5-6-1-3	出庫の処理日を指定できる(デフォルト当日)。
5-6-1-4	出庫先を指定できる。
5-6-1-5	出庫数を入力できる。
5-6-1-6	備考欄に定型文コメントが選択できる。
5-6-1-7	出庫した品目を選択し、戻入(返戻)できる。このとき、戻入数を入力できる。
5-6-1-8	在庫品目を選択し、廃棄(除却)できる。このとき、廃棄数を入力できる。
5-6-1-9	リストの表示内容を印刷できる。
5-6-1-10	毒劇物に設定された品目の場合、担当者マスターで毒劇物出庫権限があるログイン者のみ出庫できる。
5-6-1-11	棚卸指示中の場合、出庫、戻入、廃棄が行えないようロックをかけることができる。
5-6-2	使用開始終了登録
5-6-2-1	GS1-128 バーコード (二次元も可)、システムから出力したバーコード、GTIN-13 バーコードを利用し、使用開始日時または使用終了日時の登録ができる。
5-6-2-2	出庫情報を検索条件(品目管理部門、品目区分、出庫日範囲、出庫先グループ、出庫先、品目コード、品目名)を指定して検索し、出庫情報から品目を選択して使用開始終了日の登録ができる。 また、【仕様終了日登録済みを含む】のチェックを入力することで、使用終了日時が登録済みの品目を表示することができる。
5-6-2-3	マスターの設定によって、使用開始日は出庫時に在庫日がデフォルトでセットすることができる。
5-6-2-4	使用終了日は品目ごとの設定により、次回同品目を同出庫先に出庫した際に自動で出庫日時を使用終了日にセットすることができる。
5-6-2-5	使用開始日または終了日の日時を手動で指定できる (デフォルト現在日時)。
5-6-2-6	リストの表示内容を印刷できる。
5-6-2-7	使用終了日が未登録の品目について、次回同品目を同出庫先に出庫する際にお知らせダイアログボックスが表示され、ダイアログボックス内の操作によって使用終了日が登録できる。
5-7	棚卸
5-7-1	棚卸指示

5-7-1-1	対象とするロケーションをチェックし、棚卸指示を実行できる。
5-7-1-2	棚卸指示中は入庫、出庫、在庫移動が行えないようロックをかけることができる。
5-7-1-3	棚卸指示書の印刷ができる。
5-7-1-4	参照モードで棚卸指示書の再印刷ができる。
5-7-1-5	参照モードでロケーション一覧の棚卸番号をクリックすることで、指定した棚卸番号の棚卸し結果入力画面を開くことができる。
5-7-1-6	ロケーション名の右横に表示された温度計マークから温度管理システムで管理している冷蔵庫の温度情報画面に遷移することができる。
5-7-2	棚卸結果入力
5-7-2-1	棚卸番号を入力すると該当する棚卸指示が表示され、棚卸結果（棚卸在庫数）を入力できる。
5-7-2-2	棚卸指示の解除ができる。
5-7-2-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8	照会
5-8-1	要発注品目照会
5-8-1-1	要発注品目を検索条件（要発注品目のみ抽出のチェック、品目管理部門、発注方式、品目区分、品目コード、品目名称）を指定でき、検索できる。
5-8-1-2	リストの表示内容をファイル（Excel）出力できる。
5-8-1-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-1-4	ロケーション名の右横に表示された温度計マークから温度管理システムで管理している冷蔵庫の温度情報画面に遷移することができる。
5-8-2	発注申請状況照会
5-8-2-1	検索条件（発注申請部門、品目管理部門、発注申請期間、仕入先、品目区分、状態）を指定し、発注申請状況情報をリスト表示できる。
5-8-2-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-2-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-3	発注状況照会
5-8-3-1	検索条件（発注申請部門、品目管理部門、発注期間、仕入先、品目区分、状態）を指定し、発注状況情報をリスト表示できる。
5-8-3-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-3-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-4	納期遅延照会
5-8-4-1	検索条件(納期遅延情報のみの表示のチェック、納品予定日範囲、発注申請部門、仕入先、品目管理部門、品目区分、品目コード、品目名)を指定

	し、納期遅延情報をリスト表示できる。
5-8-4-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-4-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-5	入庫状況照会
5-8-5-1	検索条件（品目管理部門、品目区分、仕入先、入庫期間、ロケーション）を指定し、入庫状況情報をリスト表示できる。
5-8-5-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-5-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-5-4	ロケーション名の右横に表示された温度計マークから温度管理システムで管理している冷蔵庫の温度情報画面に遷移することができる。
5-8-6	出庫状況照会
5-8-6-1	検索条件（出庫期間、出庫先グループ、出庫先、ロケーション、品目管理部門、品目区分）を指定し、出庫状況情報をリスト表示できる。
5-8-6-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-6-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-6-4	ロケーション名の右横に表示された温度計マークから温度管理システムで管理している冷蔵庫の温度情報画面に遷移することができる。
5-8-7	除却状況照会
5-8-7-1	検索条件（除却期間、品目管理部門、品目区分）を指定し、除却状況情報をリスト表示できる。
5-8-7-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-7-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-8	在庫状況照会
5-8-8-1	<p>検索条件（品目管理部門、品目区分、品目コード、品目名、在庫ありのみ表示または在庫 0 でも表示または品目管理除外品も表示の指定、毒劇物のみの表示の指定、ロット単位の表示の指定）を指定し、選択した品目の現況詳細（発注情報と在庫情報）、日別履歴（対象期間の入出庫、棚卸、廃棄、在庫残などの処理歴）、月別履歴（対象期間の月ごとの発注数、入庫数、出庫数、棚卸差異数、廃棄数、月末在庫数の数量または金額）をリスト表示できる。</p> <p>また、月別履歴は X 軸を年月、Y 軸を値とした、発注数、入庫数、出庫数、廃棄数、月末在庫数の折れ線グラフが表示できる。</p>
5-8-8-2	在庫情報詳細が印刷できる。
5-8-8-3	日別入出庫履歴が印刷できる。
5-8-8-4	月別入出庫履歴が印刷できる。

5-8-8-5	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-8-6	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-9	在庫回転照会
5-8-9-1	検索条件（対象期間、管理部門、品目区分、回転率（〇回以上/以下）を指定し、在庫回転率情報をリスト表示できる。
5-8-9-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-9-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-10	不良在庫照会
5-8-10-1	検索条件（品目区分、品目管理部門、過剰在庫（在庫月数〇ヶ月以上（平均出庫数算出期間〇ヶ月））または不動在庫（〇ヶ月以上出庫なし）または LOT 使用期限切れ在庫（検索日指定）または最大在庫量超過にチェック）指定し、不良在庫情報をリスト表示できる。
5-8-10-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-10-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-11	棚卸結果照会
5-8-11-1	棚卸番号または棚卸実施期間を指定し、棚卸結果情報をリスト表示できる。 このとき、棚卸差異数ゼロのものは表示しないこともできる。
5-8-11-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-11-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-12	月次在庫照会
5-8-12-1	検索条件（照会年月、品目管理部門、品目区分、品目コード、ABC ランク、在庫金額（〇円以上/以下）、品目名）を指定し、月次在庫情報をリスト表示できる。
5-8-12-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-12-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-8-13	使用期限切迫品照会
5-8-13-1	検索条件（品目管理部門、品目区分、検索日数（任意の日数または 1 週間、2 週間、4 週間のいずれか、出庫済みのみ抽出のチェック）を指定し、使用期限切迫品情報をリスト表示できる。
5-8-13-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-8-13-3	リストの表示内容を印刷できる。
5-9	統計
5-9-1	ABC 分析
5-9-1-1	数量または金額をチェックし、検索条件（品目管理部門、品目区分、期

	間)を指定して抽出された品目の、ABC 分析ができ、品目マスターに ABC ランクの反映ができる。
5-9-1-2	ABC ランクの構成比率のグラフを表示できる。
5-9-1-3	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-9-1-4	リストの表示内容を印刷できる。
5-9-2	月次データ集計
5-9-2-1	月単位で各品目の在庫評価単価、在庫評価金額、在庫評価単価（先入先出）、在庫評価金額（先入先出）、在庫評価単価（移動平均）、在庫評価金額（移動平均）を計算し集計できる。
5-9-3	試薬管理台帳
5-9-3-1	品目ごとまたは分析装置ごとまたはロケーションごとの試薬管理台帳の出力ができる。
5-9-3-2	検索条件（検索期間、出庫先グループ、出庫先、ロケーション、品目管理部門、品目区分、品目）を指定し、試薬管理台帳をリスト表示できる。
5-9-3-3	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-9-3-4	リストの表示内容を印刷できる。
5-9-3-5	項目ごと試薬管理台帳の表示内容：管理部門、出力範囲（期間）、品目コード、品目名、保存方法、JAN コード、製造番号、梱包単位、製造元、出庫先、保管場所
5-9-3-6	項目ごとリスト表示内容：品目コード、品目名、処理日付、処理内容（入庫・出庫など）、ロット番号、使用期限、発注数、入庫数、出庫数、棚卸数、廃棄数、在庫残、使用開始日、使用開始者、使用終了日、使用終了者、出庫先、備考
5-9-3-7	分析装置ごと試薬管理台帳の表示内容：管理部門、分析装置名、出力範囲（期間）、品目コード、品目名、ロット番号、使用期限、使用開始日、使用終了日、備考、精度管理責任者印鑑欄、担当者印鑑欄
5-9-3-8	分析装置ごとリスト表示内容：分析機、品目コード、品目名、ロット番号、使用期限、入庫日、使用開始日、使用終了日、備考
5-9-3-9	ロケーションごと試薬管理台帳の表示内容：管理部門、ロケーション、出力範囲（期間）、品目コード、品目名、ロット番号、入庫日、使用期限、使用開始日、使用終了日、出庫先、備考、精度管理責任者印鑑欄、担当者印鑑欄
5-9-3-10	ロケーションごとリスト表示内容：ロケーション、品目コード、品目名、ロット番号、使用期限、入庫日、使用開始日、使用終了日、出庫先、備考
5-9-4	推定適正在庫量

5-9-4-1	対象期間、欠品許容率を指定し、品目検索（品目区分、管理部門、品目コード、品目名称、発注方式を指定）で抽出された品目の最大在庫量、発注点、1 回当り発注数量を計算し、計算結果などの情報をリスト表示できる。計算結果は品目マスターに反映できる。
5-9-4-2	リストの表示内容をファイル(Excel)出力できる。
5-9-5	年次在庫評価更新
5-9-5-1	月次データ集計のデータを元に、年間の在庫評価単価を計算できる。次月より、この評価単価を元に月次在庫評価を行うことができる。

他メーカー製の場合は、上記と同等とする。

2 その他

- ・運搬、搬入、調整、設置費用、電気工事費用等を含む。
- ・電子カルテ、検査機器への接続費用、データ移行費用を含む。